

# 4.流域治水プロジェクト 2.0の策定・公表

# 淀川水系流域治水プロ ジェクト2.0【全体版】

# 淀川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

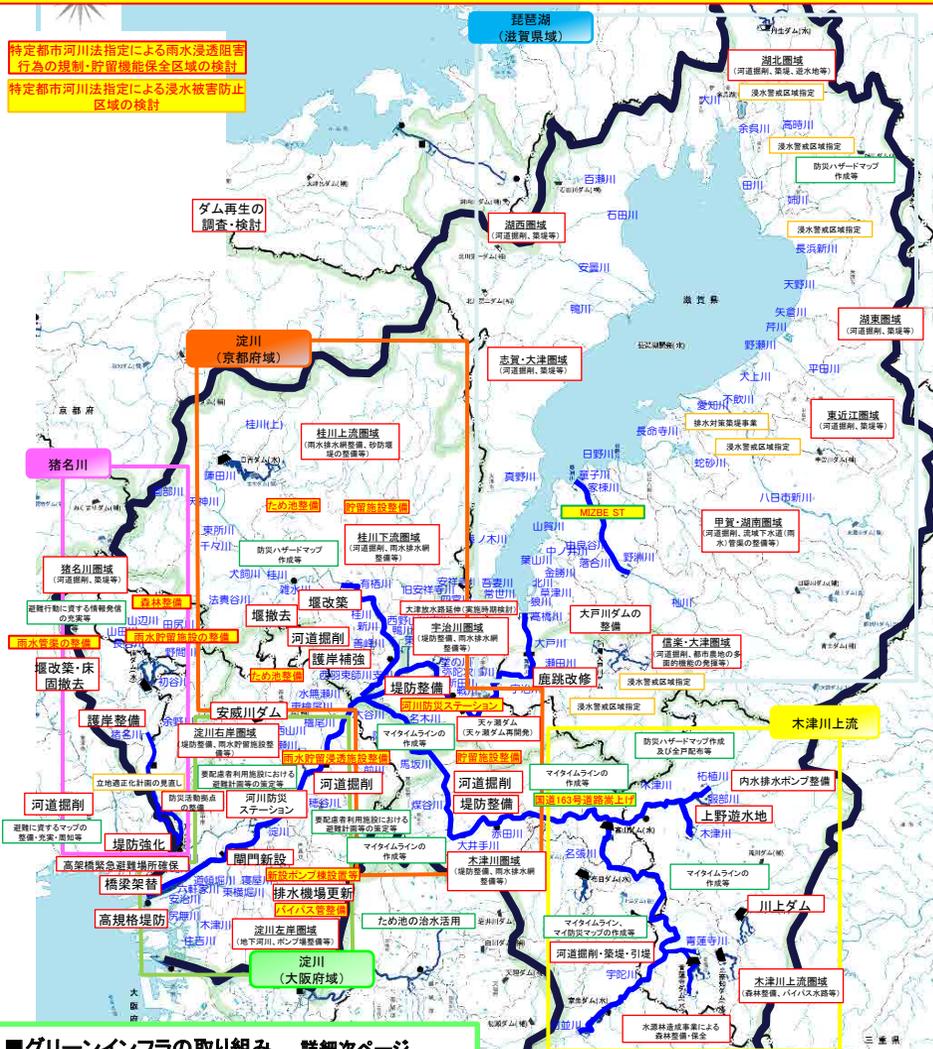
【全体版】

～流域人口1,100万人の「淀川市民」の命を守る治水対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)

○淀川水系では、これまでの河川整備の進捗や近年洪水の発生状況、気候変動の影響等をふまえ、令和3年8月に策定した淀川水系河川整備計画(変更)に基づき、国管理河川のうち淀川本川においては計画規模洪水を安全に流下させる能力を堅持しながら、宇治川・桂川においては平成25年台風18号洪水、木津川・猪名川については戦後最大規模の洪水の降雨量を1.1倍とした洪水を安全に流下させるための対策を進めてきたところ。

○気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来にわたって安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法(以下、「特定都市河川法」)の適用を検討し、更なる治水対策を推進する。

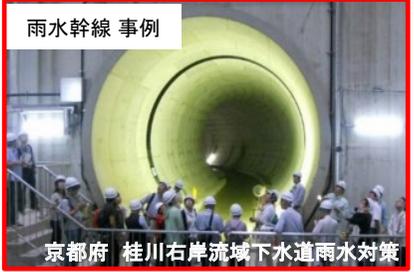


特定都市河川法指定による雨水浸透阻害行為の規制・貯留機能保全区域の検討  
特定都市河川法指定による浸水被害防止区域の検討

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**
  - ・河道掘削、河道拡幅、築堤、防強化、高規格堤防、天ヶ瀬ダム再開発、川上ダム、安威川ダム、上野遊水地、鹿跳改修、橋梁架替、地下河川、バイパス水路、堰改築、堰撤去、護岸整備、大戸川ダム、河川防災ステーション整備
  - ・流域下水道(雨水)管渠の整備、公共下水道(雨水)管渠等の整備、雨水ポンプ増強、内水排水ポンプ設備
  - ・雨水貯留浸透施設の整備、開発行為に伴う調整池の設置、ため池の治水利用
  - ・利水ダム等25ダムにおける事前放流等の実施、体制構築、河川改修に伴うダム運用改善、ダム再生の調査・検討(関係者：国、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、大阪府、三重県、水資源機構、土地改良区、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、奈良市、天理市、日野川用水施設管理協議会、甲賀市、宇陀市、関西電力(株)、山添村、大阪府、伊賀市、川西市、伊丹市、尼崎市、池田市、枚方市、大阪広域水道企業団、守口市、名張市、中部電力(株)、いぶき水力発電(株)、阪神水道企業団など)
  - ・森林整備・保全のための治山対策等、砂防事業(堰堤)の推進による雨水・土砂・流木の流出抑制対策
  - ・農地・農業水利施設の整備・保全 ・水源林造成事業による森林の整備・保全 ・道路高架区間等の緊急避難場所確保
  - ・特定都市河川法指定による雨水浸透阻害行為の規制・貯留機能保全区域の検討

- 被害対象を減少させるための対策**
  - ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導
  - ・建物等の耐久機能の確保・維持
  - ・浸水範囲の限定・氾濫水の制御
  - ・水害リスクマップの作成
  - ・水害リスクマップを活用した立地適正化計画及び防災指針の策定
  - ・特定都市河川法指定による浸水被害防止区域の検討 等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**
  - ・水害リスク空白域の解消
  - ・ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組、水害リスク情報の空白域の解消、内水ハザードマップの策定
  - ・避難指示等の判断・伝達マニュアルの整備
  - ・広域避難計画等の策定 ・マイ・タイムラインの作成
  - ・要配慮者利用施設における避難計画等の策定及び避難訓練の実施、避難支援対策の整備
  - ・水位計・監視カメラの設置、監視体制の拡充
  - ・VR・AR等を用いた情報発信
  - ・「局地的豪雨探知システム」の利活用推進とゲリラ豪雨対策広域アクションプランの策定に基づく適応策推進
  - ・住宅再建共済制度への加入促進
  - ・MIZBEステーション(水防拠点)整備
  - ・ドローンを活用した巡視の効率化
  - ・三次元管内図の活用による河川管理の効率化及び高度化
  - ・粘り強い河川堤防の整備
  - ・舟運による早期復旧等
  - ・BIM/CIMなどの適用による三次元モデルの積極的な活用
  - ・河川防災ステーションの平時利活用の推進
  - ・流域タイムラインの作成・運用 等



●グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

※流域治水協議会には現時点で90機関が参加  
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。各エリアの主な対策を記載しており、各エリアの詳細については、別途分会(詳細図)を参照してください。  
※他の事業者の計画も見直されれば、その内容をプロジェクトに反映します。※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

# 淀川水系流域治水プロジェクト

## 【位置図】

## 【全体版】

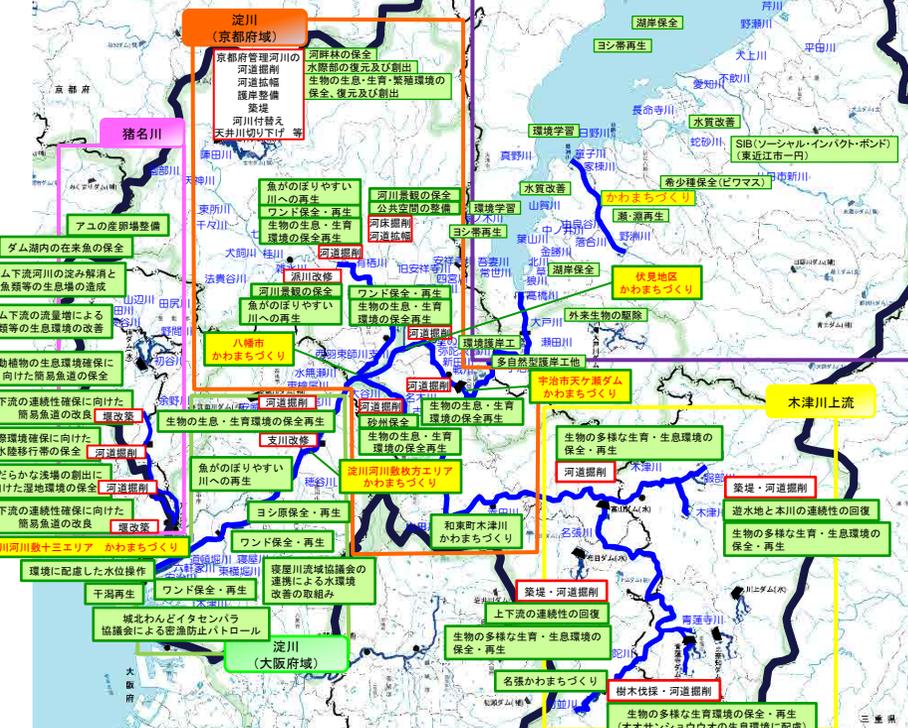
～流域人口1,100万人の「淀川市民」の命を守る治水対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)

- 淀川下流域では、ヨシ原、寄り州、ワンド・たまりや干潟などの環境に応じて、イタセンバラをはじめとする魚介類、鳥類、塩性植物など、多くの動植物が見られる。
  - 宇治川のヨシ原や礫床、木津川の砂州河原、たまり、瀬と淵、桂川のワンドなどの環境に応じて、オオヨシキリ等の鳥類やナカセコカワニナやヨドゼゼラなどの魚介類が見られる。
  - 木津川上流の一部は室生赤目青山国定公園に位置し、国の天然記念物であるオオサンショウウオの生息が確認されている。
  - 日本最大の湖である琵琶湖は、多様な生物が生息する他、下流域の暮らしを支える水資源である。
  - 猪名川の自然環境は都市部に残された貴重な自然環境として人々に潤いを与えている。
- こうした次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境、多様な生態系を保全、再生等していく、「自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組」も取り入れた流域治水プロジェクトを推進する。

- 凡例**
- グリーンインフラの取組
  - 改修事業

- 【全域に係る取組】**
- <大阪府、京都府、木津上>
    - ・生態系にも配慮した総合土砂管理の検討
  - <琵琶湖>
    - ・森林整備
    - ・湖辺域のまちづくり
    - ・農地・農業水利施設の整備保全
  - <大阪府、京都府、琵琶湖、木津上、猪名川>
    - ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援



- グリーンインフラの取組み**
- 大阪府域分会、京都府域分会 : 『ワンドなど変化に富んだ多様な生息環境の保全・再生』
  - 琵琶湖(滋賀県域)分会 : 『水辺環境の創出などによる人と自然環境のより良い関係の構築』
  - 木津川上流分会 : 『淀川の水と緑がくみあう流域治水対策』
  - 猪名川分会 : 『多様な生物が生息する人々と連携した河川環境の回復』

淀川河川敷十三エリアがわまちづくり 事業者作成イメージ



再生前 レキ河原・水陸移行帯の再生(猪名川)



再生後



城北ワンド ワンドの再生(大阪府域)



淀川(大阪)のシンボル フィッシュイタセンバラ



- 自然環境の保全・復元などの自然再生**
- <大阪> ・干潟再生、ヨシ原保全・再生、ワンド保全・再生
  - <猪名川> ・動植物の生息環境確保に向けたレキ河原と簡易魚道の保全
  - <琵琶湖> ・ヨシ帯再生、瀬・淵再生、希少種保全(ビワスの繁殖環境の整備)、水質改善(植生護岸工、植生浄化池等)、湖岸保全(砂浜浸食対策:突堤、養浜等)、内湖再生

- 健全な水循環系の回復**
- <琵琶湖>水質改善(植生護岸工、植生浄化池等)

- 治水対策における多自然川づくり**
- <大阪> ・生物の生息・生育環境の保全再生、魚のぼりやすい川への再生
  - <京都> ・生物の生息・生育・繁殖環境の保全再生、復元及び創出、ワンド保全・再生、魚のぼりやすい川への再生、砂州保全、水際部の復元及び創出、河畔林の保全
  - <木津上> 上下流の連続性の回復、遊水地と本川の連続性の回復、生物の多様な生育環境の保全・再生
  - <猪名川> ・上下流の連続性確保に向けた簡易魚道の保全・改良、水際環境確保に向けた水陸移行帯の保全、などらかな浅場の創出に向けた湿地環境の保全
  - <琵琶湖> ・多自然型護岸工(環境護岸工)、水制工・パーブ工、希少種保全(ビワスの繁殖環境の整備)

- 魅力ある水辺空間・賑わい創出**
- <琵琶湖>かわまちづくり
  - <京都> 和東町木津川かわまちづくり、河川景観の保全
  - 八幡市かわまちづくり、伏見地区かわまちづくり、宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり
  - <大阪> 淀川河川敷十三エリアかわまちづくり、淀川河川敷教方エリアかわまちづくり
  - <木津上>名張かわまちづくり

- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み**
- <大阪、京都> ・淀川環境委員会の提案をふまえた河川環境の整備と保全、河川レンジャー制度による環境学習、動植物保護活動との連携、小中学校における河川環境学習の実施、住民団体と連携した水生生物調査の実施
  - <大阪> ・城北わんどイタセンバラ協議会による密漁防止パトロール、住民と連携した外来生物駆除
  - ・環境に配慮した水位操作、寝屋川流域協議会の連携による水環境改善の取組み
  - <木津上> ・牧草等に活用される刈草ロールの配布、小中学生による水生生物調査
  - ・河川レンジャー制度を活用した環境学習、水辺の楽校を活用した環境学習、ヤギを活用した除草
  - <猪名川> ・小中学校などにおける河川環境学習、水環境パネル展の開催、ヒメボタル幼虫調査、観察会の実施
  - ・地域活動団体等と連携・協働した外来種であるアレチウリ駆除活動の実施
  - ・地域協働団体と連携したアユの産卵場整備体験学習
  - <琵琶湖> ・多様な主体の参画による外来生物の駆除、地域や小中学校と連携した環境学習、固有種産卵繁殖場の保全、SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。各エリアの詳細については、別途分会資料を参照ください。  
 ※他の事業者の計画も見直されれば、その内容をプロジェクトに反映します。  
 ※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

# 淀川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

【全体版】

～流域人口1,100万人の「淀川市民」の命を守る治水対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)

●淀川水系では治水安全度の著しく低い桂川の河道掘削等を推進しつつ、淀川本川も含めて全川の水位を下げる川上ダム建設や天ヶ瀬ダム再開発等による洪水調節機能の向上や本川の水位を低下させる阪神なんば線の架替を進め、淀川本川の治水安全度を堅持しつつ、中上流部の治水安全度の向上を図る。また、大阪都市圏を抱える下流においては、近年頻発する超過洪水への対応や避難高台等にも活用できる高規格堤防の整備を推進し、水害リスクの軽減を図る。

【短期】川上ダム建設や天ヶ瀬ダム再開発等による流量低減対策の推進と併せて中上流部の河川改修を推進する。下流部では堤防強化や高規格堤防整備事業による質的強化を図る。あわせて、下水道整備による浸水対策や流出抑制対策（雨水貯留施設等）、立地適正化計画の見直し・策定による土地利用誘導の被害対象、避難に資するマップ等の整備・充実・周知等のソフト対策を実施。

【中期】阪神なんば線架替事業を完成させるとともに、中上流部の河川改修と高規格堤防整備事業の推進を図る。あわせて、下水道整備による浸水対策や流出抑制対策（雨水貯留施設等）、避難に資するマップ等の更なる整備・充実・周知等のソフト対策を実施。

【長期】中上流部の河川改修の推進と高規格堤防整備事業の推進を図る。あわせて、下水道整備による浸水対策や流出抑制対策（雨水貯留施設等）、避難に資するマップ等の更なる整備・充実・周知等のソフト対策を実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備・河道掘削・橋梁架替、閘門新設等	国土交通省、流域府県市町村等	名張黒田地区引堤(国土交通省)	淀川大堰閘門新設完成(国土交通省)	阪神なんば線橋梁架替完成(国土交通省)
	ダム建設	国土交通省水資源機構大阪府等	川上ダム完成(水資源機構)	安威川ダム完成(大阪府)	・R 高槻駅北雨水貯留施設整備完成(高槻市) ・楠葉排水区雨水貯留管等整備完成(枚方市)
	流出抑制対策(調整池・ため池等)	高槻市、枚方市等	天ヶ瀬ダム再開発完成(国土交通省)	【貯留施設整備】ため池整備(京都市)	バイパス管整備一部完成(東大阪市)
	流域下水道(雨水)管渠の整備・老朽化対策	流域府県市町村等		大戸川小田排水機場の整備(伊賀市)	新設ポンプ棟設置等完成(守口市)
	砂防堰堤による土砂等の流出抑制対策	国土交通省、流域府県市町村等		立地適正化計画の見直し(豊中市)	立地適正化計画の策定(長岡京市)
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画策定等	長岡京市、豊中市、高槻市、八尾市等	居住誘導区域見直し及び防災指針策定(高槻市、八尾市)	防災指針策定(京田辺市)	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難に資するマップ等の整備・充実・周知	国土交通省、流域府県市町村等	MIZBEステーション(水防拠点)整備(国土交通省)	SOS避難メソッド等を掲載した防災ブック作成(摂津市)	多機関連携型タイムライン(淀川広域)の策定・コミュニティタイムラインの策定支援(高槻市)

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

# 淀川水系流域治水プロジェクト 水系全体【ロードマップ】

【全体版】

～流域人口1,100万人の「淀川市民」の命を守る治水対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	長期
グリーンインフラの取組	自然環境の保全・復元などの自然再生	国土交通省、滋賀県、流域市町村 等	ワンド保全・再生、ヨシ原保全・再生 等		
	健全な水循環系の回復	滋賀県 等	水質改善 等		
	治水対策における多自然川づくり	国土交通省、水資源機構、流域府縣市町村 等	生物の生息・生育環境の保全再生 等		
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	国土交通省 等	かわまちづくり、景観保全 等		
	自然環境が有する多様な機能活用の取組	国土交通省、流域府縣市町村 等	環境学習等ソフト施策に関する取組		
	各分会全域に係る取組	国土交通省、流域府縣市町村 等	森林保全整備、総合土砂管理 等		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

琵琶湖分会

# 流域治水プロジェクト2.0

～気候変動下で水害と共生する社会をデザインする～

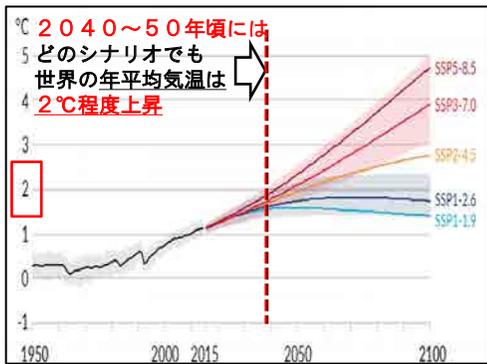
R6.3更新(2.0策定)

## ■現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算。
- 現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの関心の高まりに伴い治水機能以外の多面的な機能も考慮する必要
- インフラDX等の技術の進展

## ■流域治水プロジェクト更新の方向性

- 気候変動を踏まえた治水計画に見直すとともに、流域対策の目標を定め、あらゆる関係者による流域対策の充実
- 対策の“量”、“質”、“手段”の強化により早期に防災・減災を実現
- 気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を『流域治水プロジェクト2.0』として、全国109水系で順次更新し、流域関係者で共有

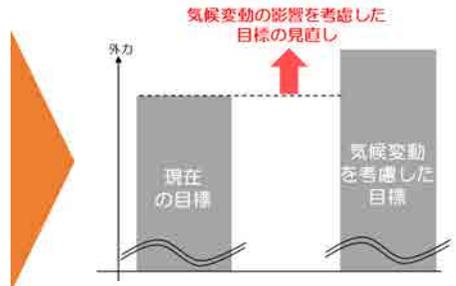


気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇相当	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100～1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



河川整備計画等についても、気候変動を踏まえ安全度を維持するための目標外力の引き上げが必要

## ■流域治水2.0のフレームワーク ～気候変動下で水害と共生するための3つの強化～

### “量”の強化

- ◆ 気候変動を踏まえた治水計画への見直し(2℃上昇下でも目標安全度維持)
- ◆ 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
- ◆ あらゆる治水対策の総動員

### “質”の強化

- ◆ 溢れることも考慮した減災対策の推進
- ◆ 多面的機能を活用した治水対策の推進

### “手段”の強化

- ◆ 既存ストックの徹底活用
- ◆ 民間資金等の活用
- ◆ インフラDX等の新技術の活用

水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動

	氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<b>“量” の強化</b>	○気候変動を踏まえた治水計画 (2℃上昇下でも目標安全度維持) <具体の取組> ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づきハード対策		○気候変動を踏まえた治水計画 (2℃上昇下でも目標安全度維持) <具体の取組> ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策
<b>“質” の強化</b>	○溢れることも考慮した減災対策の推進 <具体の取組> ・特定都市河川法指定による貯留機能保全区域の検討	○溢れることも考慮した減災対策の推進 <具体の取組> ・土地利用や住まい方の工夫 ・特定都市河川法指定による浸水被害防止区域の検討 ・浸水警戒区域内での嵩上げ等安全な住まい方の支援 ・浸水警戒区域指定による建築規制の実施	○多面的機能を活用した治水対策の推進 <具体の取組> ・MIZBEステーション(水防拠点)整備
<b>“手段” の強化</b>			○インフラDX等の新技術の活用 <具体の取組> ・気候変動等を踏まえた気象観測・予測の高度化 ・三次元管内図の活用による河川管理の効率化及び高度化 ・ドローンを活用した巡視の効率化

- 国管理河川は、淀川水系河川整備計画(R3.8)において、気候変動による降雨量増加(1.1倍)を考慮し、目標流量を変更済みであるが、野洲川では、現行の河川整備計画目標洪水が発生し、堤防が決壊した場合、浸水世帯数が約973世帯になると想定され、事業の実施により浸水被害が解消される。
- 県管理河川は、気候変動を考慮した降雨量が現行計画を上回る河川について、河川整備状況に応じた対応方針を定めている。具体的には、新たに計画を策定する河川や暫定整備が完了している河川については、気候変動を踏まえた整備計画を立案することとし、暫定整備中の河川については、現行の整備計画に位置付けている整備メニューを加速させるとともに、気候変動を踏まえた計画を検討し、その結果、できるだけ手戻りのない整備が可能であれば、整備計画への位置付けを検討する。

## ■気候変動に伴う水害リスク

### 国管理区間からの外水氾濫による浸水範囲・浸水世帯数

#### 最大浸水深図

- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～2.0m未満の区域
- 2.0～5.0m未満の区域
- 5.0m以上の区域

【野洲川】浸水世帯数  
約 973世帯

<現状>

河道：R4末時点  
外力：現行河川整備計画の目標流量



対策後

#### 最大浸水深図

- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～2.0m未満の区域
- 2.0～5.0m未満の区域
- 5.0m以上の区域

【野洲川】浸水世帯数  
約 0世帯

<対策後>

【目標①】

KPI: 浸水世帯数  
約973世帯⇒0世帯



河道：整備計画完了時点  
外力：現行河川整備計画の目標流量

## ■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の整備計画目標洪水に対する安全の確保

【国管理河川】瀬田川：67.6kp～75.0kp 野洲川：0.0kp～13.8kp

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	計画規模洪水を安全に流下させる	鹿跳改修(瀬田川) 堤防強化(浸透対策等)(野洲川)：3,400m	概ね30年
被害対象を減らす	-	-	-	-
被害の軽減・早期復旧・復興	国	多面的機能を活用した治水対策の推進	MIZBEステーション(水防拠点)整備(野洲川)：1箇所	-

【県管理河川】

種別	実施主体	目的・効果	追加対策(R5年度中の変更認可予定)	期間
氾濫を防ぐ・減らす	県	計画規模洪水を安全に流下させる	○信楽・大津圏域 ・河道掘削、築堤：大戸川上流区間(整備実施区間 2.2km、整備時期検討区間 9.2km) ○甲賀・湖南圏域 ・河道掘削：落合川(整備実施区間 1.2km、整備時期検討区間 1.0km) ・河道掘削：草津川(整備実施区間 2.5km、整備時期検討区間 3.2km) ・河道拡幅：北川(整備実施区間 0.4km) ○東近江圏域 ・河道掘削：日野川(整備実施区間 7.5km、整備時期検討区間 6.2km) ・河道掘削：愛知川(整備実施区間 0.8km) ・河道掘削：八日市新川(整備時期検討区間 1.3km)	概ね20年
被害対象を減らす	県	-	-	-
被害の軽減・早期復旧・復興	県	-	-	-

※河川整備計画の変更案を検討する過程において、流域治水プロジェクト2.0の対策の具体化について検討する。



# 淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会【位置図】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

R6.3更新 (2.0策定)

## ●グリーンインフラの取り組み 『水辺環境の創出などによる人と自然環境のより良い関係の構築』

○日本最大の湖である琵琶湖は、多様な生物が生息する他、下流域や湖周辺の暮らしを支える水資源であり、多くの河川が流入する一方で流出河川は瀬田川のみといった特性を有する。  
○滋賀県域においては、今後20年間でヨシ帯再生等の自然環境の保全・復元などの自然再生や、植生護岸等の水質改善対策による健全な水循環系の回復に取り組む。また、小中学校と連携した環境学習や外来生物の駆除など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

：拡充する対策

- 自然環境の保全・復元などの自然再生
  - ・ヨシ帯再生
  - ・瀬・淵再生
  - ・希少種保全（ビワマスの遡上・繁殖環境の整備）
  - ・水質改善（植生護岸工、植生浄化池等）
  - ・湖岸保全（砂浜浸食対策：突堤、養浜等）
  - ・内湖再生

瀬・淵の再生



ヨシ帯再生



希少種保全（鋼製魚道）



湖岸保全（砂浜浸食対策：突堤）



湖岸保全（砂浜浸食対策：養浜）

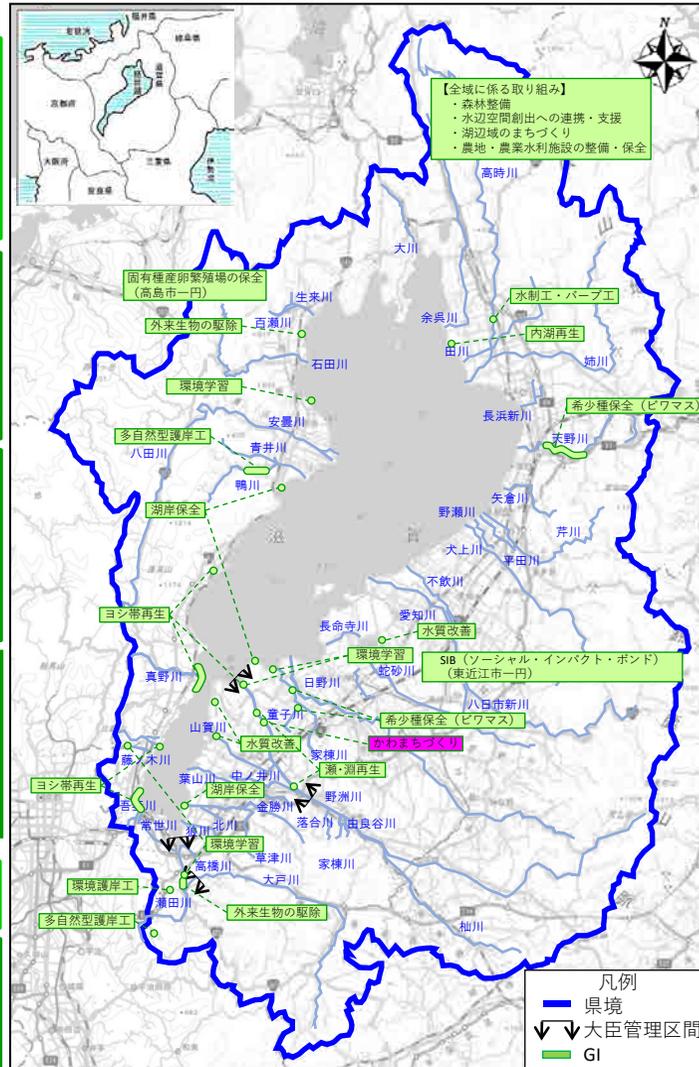


- 健全な水循環系の回復
  - ・水質改善（植生護岸工、植生浄化池等）

水質改善（植生護岸工）



水質改善（植生浄化池等）



- 多自然川づくり（改修・維持事業等）
  - ・多自然型護岸工・環境護岸工
  - ・水制工・パープエ
  - ・希少種保全（ビワマスの遡上・繁殖環境の整備）

多自然型護岸工



環境護岸工



希少種保全（産卵床造成）



パープエ



- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
  - ・多様な主体の参画による外来生物の駆除
  - ・地域や小中学校と連携した環境学習
  - ・固有種産卵繁殖場の保全
  - ・SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）

外来生物の駆除



地域と連携したヨシ帯再生



- 魅力ある水辺空間・賑わい創出
  - ・かわまちづくり

- 全域に係る取組
  - ・水辺空間創出への連携・支援
  - ・森林整備
  - ・湖辺域のまちづくり
  - ・農地・農業水利施設の整備・保全

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会【ロードマップ】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

**R6.3更新 (2.0策定)**

- 琵琶湖流域では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町等が一体となって、「流域治水」を推進する。
- 【短期】洪水を安全に流下させるため、河道掘削、堤防整備を主に実施すると共に、安全なまちづくりや内水被害軽減対策などの流域対策、タイムライン活用等のソフト対策を実施。
- 【中長期】大規模な浸水被害から人命や資産を守るため、大戸川ダムを含む河川整備や流出抑制対策を実施し、あわせて、安全なまちづくりや内水被害軽減対策などの流域対策、タイムライン活用等のソフト対策を継続実施する事により流域全体の安全度向上を図る。

: 拡充する項目	対策内容	実施主体	工程	
			短期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	琵琶湖河川事務所、滋賀県、大津市、彦根市、長浜市、草津市、守山市、甲賀市、湖南市、高島市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、大戸川ダム工事事務所	山賀川 河道掘削・築堤完了	日野川 JR橋架替完了
	内水氾濫対策	滋賀県、大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、東近江市、米原市、日野町、愛荘町、豊郷町、多賀町、琵琶湖開発総合管理所	流域下水道守山栗東雨水幹線完了	姉川・高時川 河道掘削完了
	土砂災害対策	滋賀県		
	流水の貯留機能の拡大	近畿農政局、滋賀県、甲賀市、湖南市、栗東市、守山市、野洲市、等	淀川水系治水協定の運用中	
	流域の雨水貯留機能の向上	滋賀森林管理署、森林整備センター、滋賀県、大津市、彦根市、長浜市、草津市、守山市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町		
	既存管理施設の適切な維持管理	琵琶湖河川事務所、琵琶湖開発総合管理所、等		
	減災対策	琵琶湖河川事務所、滋賀県、市町等	瀬田川洗堰耐震対策完了	
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	滋賀県、大津市、近江八幡市、守山市、甲賀市、東近江市、米原市、愛荘町	浸水警戒区域内での建築制限、嵩上げ等支援の実施中	
	まちづくりでの活用を視野にした土地の水災害リスク情報の充実	滋賀県、大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町	地先の安全度マップの更新中	ハザードマップの更新
	浸水範囲の限定・氾濫水の制御	東近江市		
	安全な避難先の確保	滋賀県	向田川排水対策築堤事業完了	
	減災対策	琵琶湖河川事務所、滋賀県、市町等		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	滋賀県	出前講座等実施中	地先の安全度マップ(令和6年度末更新、その後概ね5年ごとに更新)
	あらゆる機会を活用した水災害リスク情報の提供	琵琶湖河川事務所、滋賀県、野洲市、高島市、東近江市、米原市		
	避難体制等の強化	近畿地方環境事務所、彦根地方気象台、滋賀県、大津市、彦根市、長浜市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町	要配慮者利用施設における避難計画の作成完了	
	関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化	近畿地方整備局、琵琶湖河川事務所、等	TEC-FORCE等実施中	
	インフラDX等の新技術の活用	琵琶湖河川事務所、滋賀県	MIZBEステーション(水防拠点)整備	
グリーンインフラの取組	自然環境の保全・復元などの自然再生、健全な水循環系の回復	琵琶湖河川事務所、滋賀県、大津市、野洲市、高島市、米原市	ヨシ帯再生実施中	
	治水対策における多自然川づくり	滋賀県、大津市、野洲市、米原市	水質保全実施中	希少種保全実施中
	自然環境が有する多様な機能活用の取組み	琵琶湖河川事務所、滋賀県、大津市、草津市、野洲市、高島市、東近江市、琵琶湖開発総合管理所	外来生物駆除・環境学習実施中	多自然型護岸工完了
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	琵琶湖河川事務所、野洲市	所有種産卵繁殖場の保全実施中	
	全域に係る取組み	琵琶湖河川事務所、滋賀県、林野庁	野洲市MIZBEステーションかわまちづくり	
			森林整備実施中	湖辺域のまちづくり計画中

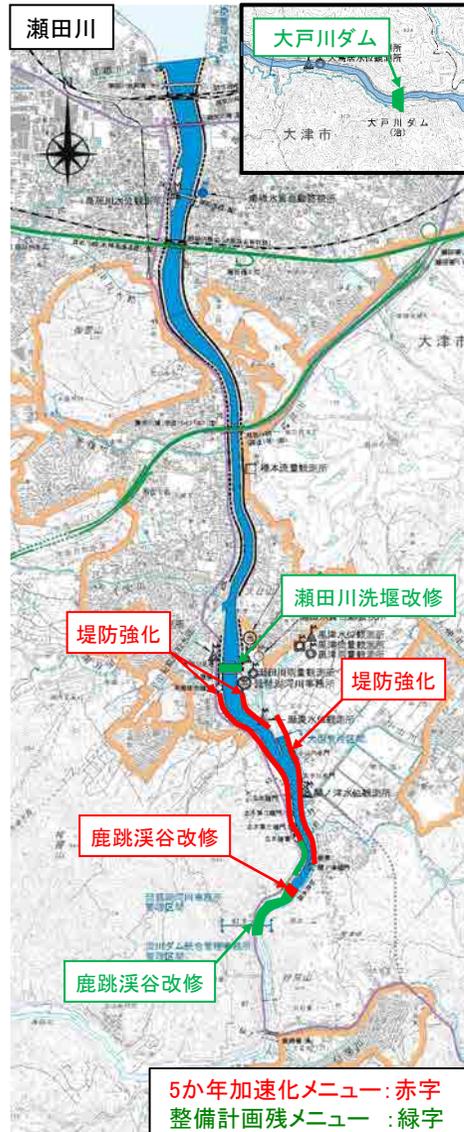
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。  
 ※各事業者の計画が変更された場合にはその内容を反映します。  
 ※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

凡例 点線：対策(工事)中、対策計画等作成中  
 実線：対策(工事)完了、対策計画等に基づく行動

# 淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会【事業効果(国直轄区間)の見える化】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

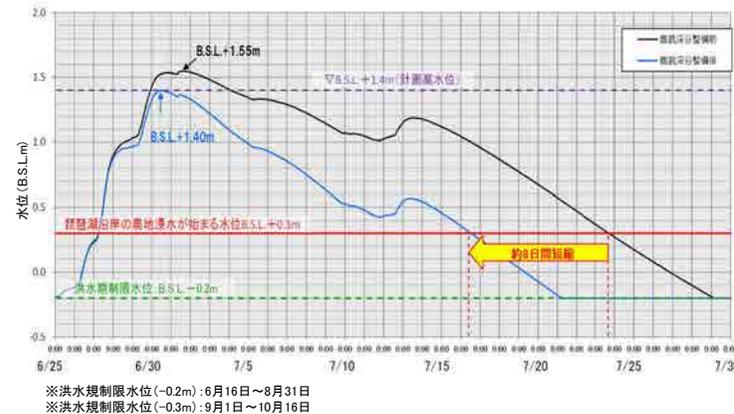
**短期整備(5カ年加速化対策)効果 : 河川整備率 約68%→約77%(淀川水系全体・国管理河川)**



瀬田川において、流下能力の向上を図るため、河川整備計画の変更を経て、鹿跳渓谷改修事業に着手。



琵琶湖水位(昭和36年6月豪雨1.38倍)



【短期整備完了時の進捗】  
鹿跳渓谷改修事業  
南郷地区 19%  
堤防強化  
関津地区 100%  
太子地区 100%  
黒津地区 100%  
南郷地区 70%

※鹿跳渓谷改修事業については計画中であり、令和3年度まで進捗率を記載している。計画が確定することにより改訂します。

区分	対策内容	区間	工程	
			短期 (R2~R7)	中長期 (R8~R34)
関連事業			▼天再開発完了	▼大戸川ダム完了
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	鹿跳渓谷改修	瀬田川 南郷地区	R5	100%
	堤防強化	瀬田川		100%
	瀬田川洗堰改修	瀬田川 黒津地区		100%

※河川整備率の数値は集計中のため変更の可能性があります。

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。  
※短期整備効果における河川整備率は淀川水系全体の河川整備率を記載。

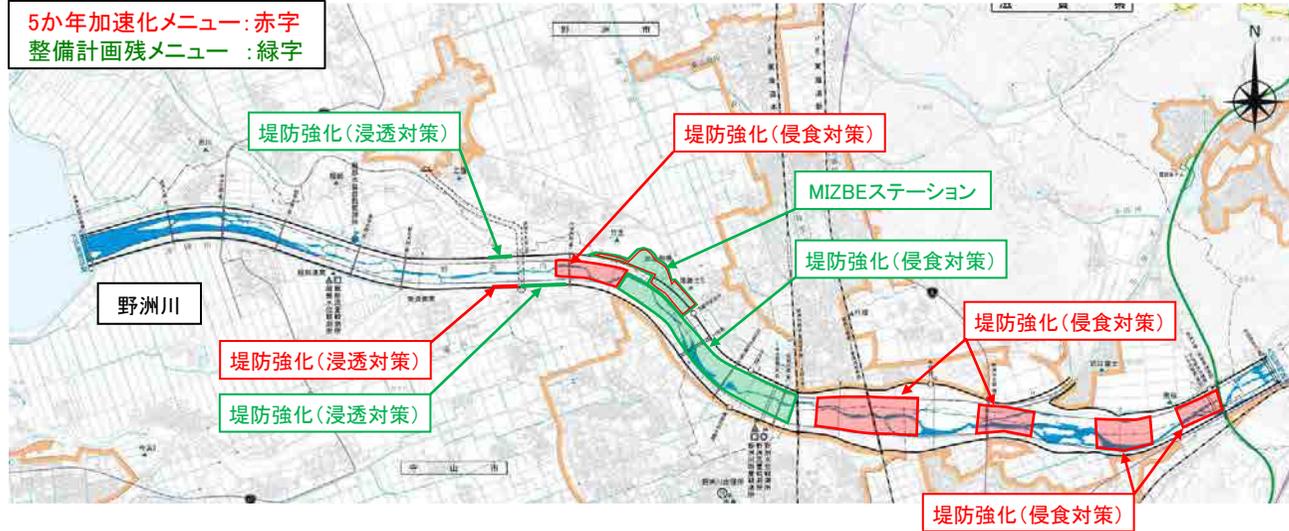
# 淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会【事業効果(国直轄区間)の見える化】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

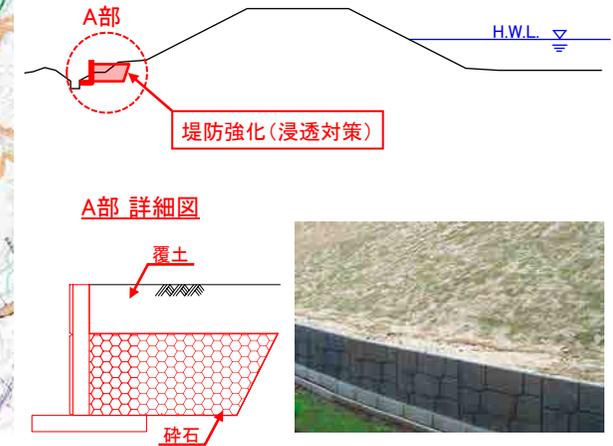
**短期整備(5カ年加速化対策)効果 : 河川整備率 約68%→約77%(淀川水系全体・国管理河川)**

野洲川において、被害の軽減、早期復旧・復興の対策を図るため、MIZBEステーションの検討・整備を実施。

5カ年加速化メニュー: 赤字  
整備計画残メニュー: 緑字



## 堤防強化(浸透対策)イメージ



**【短期整備完了時の進捗】**  
堤防強化(浸透対策等)  
川田・新庄地区 42%  
MIZBEステーション(水防拠点)整備  
三上地区 30%

## 外水氾濫による浸水範囲・浸水世帯数



**対策後**



区分	対策内容	区間	工程	
			短期 (R2~R7)	中長期 (R8~R34)
関連事業				
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防強化(浸透対策等)	野洲川	R5	100%
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	MIZBEステーション(水防拠点)整備	野洲川市三宅地区		100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。  
※短期整備効果における河川整備率は淀川水系全体の河川整備率を記載。

※河川整備率の数値は集計中のため変更の可能性があります。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会【流域治水の具体的な取組】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

**R6.3更新 (2.0策定)**

戦後最大洪水等に対応した  
河川の整備（見込）



**整備率：77%**  
(概ね5か年後)

農地・農業用施設の活用



**51市町村**  
(令和5年度末時点)

流出抑制対策の実施



**238施設**  
(令和4年度実施分)

山地の保水機能向上および  
土砂・流木災害対策



谷山対策等の  
実施箇所 **54箇所**  
(令和5年度実施分)  
砂防関連施設の  
整備数 **5施設**  
(令和5年度完成分)  
※ 施行中：73施設

立地適正化計画における  
防災指針の作成



**12市町村**  
(令和5年9月末時点)

避難のための  
ハザード情報の整備



洪水浸水想定  
区域 **268河川**  
(令和5年9月末時点)  
内水浸水想定  
区域 **12団体**  
(令和5年9月末時点)

高齢者等避難の  
実効性の確保



洪水  
避難確保  
計画 土砂 **14,904施設**  
**966施設**  
(令和5年9月末時点)  
個別避難計画 **49市町村**

## 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

### 洪水氾濫対策



### 内水氾濫対策



## 被害対象を減少させるための対策

### 土地利用・住まい方の工夫



### 水害リスク情報の充実



## 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

### 水災害リスク情報の充実



### 水災害リスク情報の提供



### 避難体制等の強化



※指標の数値は集計中のため変更の可能性があります。 ※淀川水系全体の指標の数値を記載しています。

淀川（京都府域）分会

# 流域治水プロジェクト2.0

～気候変動下で水害と共生する社会をデザインする～

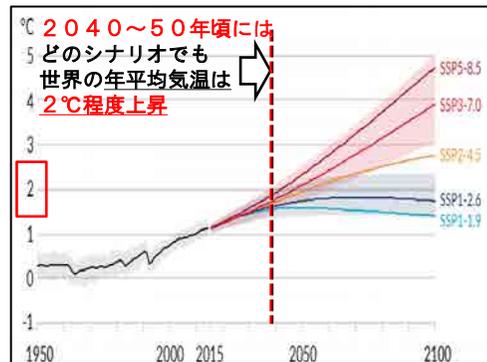
R6.3更新(2.0策定)

## ■現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算。  
**現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り**
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの関心の高まりに伴い治水機能以外の多面的な機能も考慮する必要
- インフラDX等の技術の進展

## ■流域治水プロジェクト更新の方向性

- 気候変動を踏まえた治水計画に見直すとともに、流域対策の目標を定め、あらゆる関係者による流域対策の充実
- 対策の“量”、“質”、“手段”の強化により早期に防災・減災を実現
- **気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を『流域治水プロジェクト2.0』として、全国109水系で順次更新し、流域関係者で共有**

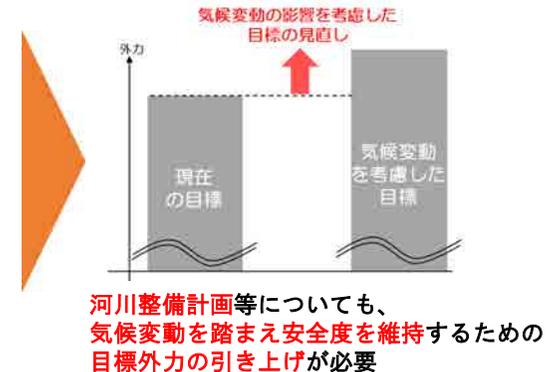


気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)	
2℃上昇相当	約1.1倍	

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100～1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



## ■流域治水2.0のフレームワーク ～気候変動下で水害と共生するための3つの強化～

### “量”の強化

- ◆ 気候変動を踏まえた治水計画への見直し(2℃上昇下でも目標安全度維持)
- ◆ 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
- ◆ あらゆる治水対策の総動員

### “質”の強化

- ◆ 溢れることも考慮した減災対策の推進
- ◆ 多面的機能を活用した治水対策の推進

### “手段”の強化

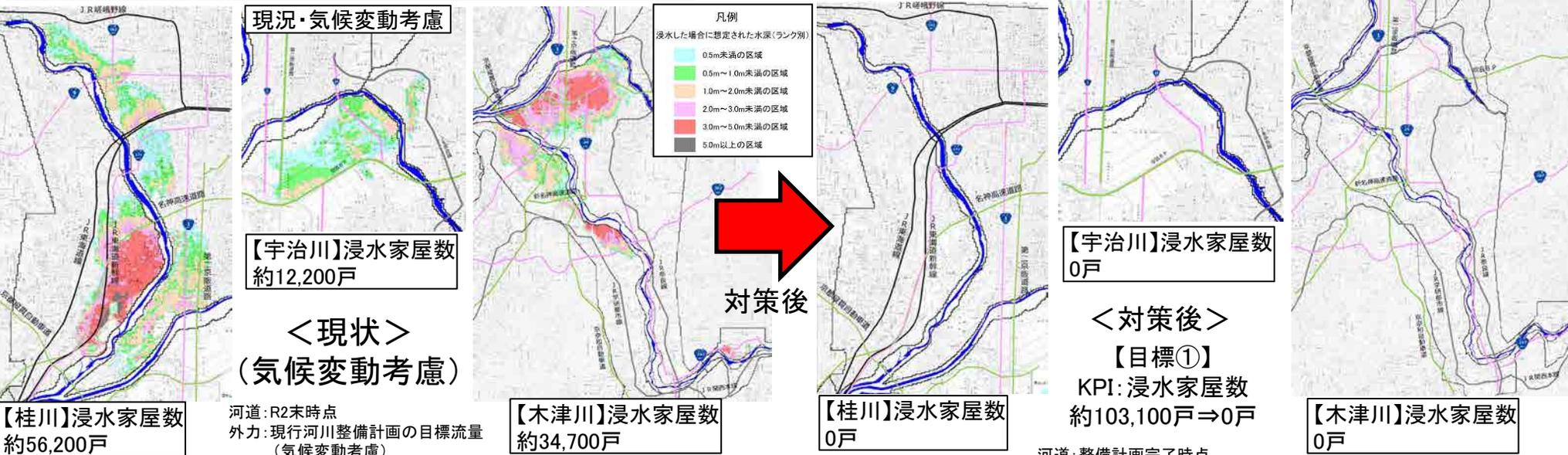
- ◆ 既存ストックの徹底活用
- ◆ 民間資金等の活用
- ◆ インフラDX等の新技術の活用

水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動

○気候変動による降雨量増加後の河川整備計画目標洪水が発生した場合、宇治川・桂川・木津川では浸水家屋数が約103,100戸になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。(淀川水系河川整備計画はR3.8に、気候変動による降雨量増加を考慮して変更済み)

## ■気候変動に伴う水害リスク

### 国管理区間からの外水氾濫による浸水範囲・浸水家屋数



＜現状＞  
(気候変動考慮)

対策後

＜対策後＞

【目標①】  
KPI: 浸水家屋数  
約103,100戸⇒0戸

## ■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

### 【目標①】気候変動による降雨量増加後の河川整備計画目標洪水に対する安全の確保

宇治川: 37.0k～53.1k、桂川: 0.0k～18.6k、木津川: 0.0k～37.2k

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ、 減らす	国	約103,100戸の浸水被害を解消	河道掘削(宇治川): 61万m <sup>3</sup> 河道掘削(桂川): 455万m <sup>3</sup> 河道掘削(木津川): 26万m <sup>3</sup> 築堤(木津川): 1,600m	概ね 30年
被害 対象を 減らす	長岡京市 京田辺市	水害リスクを踏まえたまちづくり及び居住誘導区域内の防災・減災対策による居住者の命を守る	立地適正化計画の見直し及び防災指針の策定 計画等に基づく対策の実施	-
被害の軽減・ 早期復旧・復興	国	土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討	多段階の浸水想定図(浸水頻度毎の浸水深図)及び水害リスクマップ(浸水深毎の浸水頻度)の整備	-
	淀川(京都府域)分会 全18市町村	円滑かつ迅速な避難の確保	要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進と、避難訓練実施支援	-

### 【目標②】小川流域における内水被害の軽減(概ね1/20規模降雨の雨水出水による浸水被害を防止)

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
減らす、 防ぐ、 氾濫を	木津川市	小川流域の内水の排除	ポンプ場等の排水機能整備等	概ね 30年

# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川（京都府域）分会【位置図】

R6.3更新(2.0策定)

～みず・ひと繋る古都を支える流域対策の推進～

○淀川水系の京都府域では、宇治川、桂川において、平成21年に策定した旧河川整備計画の目標洪水を上回る平成25年台風18号を、木津川においては、気候変動の影響等を踏まえ、旧整備計画の目標洪水の降雨量1.1倍以上とした洪水をそれぞれ安全に流下させることを目指す。  
 ○これまで、平成25年台風18号等による被害をふまえ、平成21年に策定した河川整備計画に位置づけたメニューを大幅に進捗してきたが、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来にわたって安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法(以下、「法」)の適用を検討し、さらなる治水対策を推進する。

- 凡例**
- 大臣管理区間・淀川河川事務所管理区間
  - 堤防整備
  - 河道掘削
  - 堰改築、堰撤去、砂防事業等
  - 県境
  - 市町村境
  - 貯留施設整備
  - 雨水排水網整備等
  - 道路整備
  - 拡充された治水対策

- リスクマップ凡例**  
 (現況・浸水深0.5m以上)  
 想定される浸水範囲
- 高頻度 (1/10)
  - 中高頻度 (1/30)
  - 中頻度 (1/50)
  - 中低頻度 (1/100)
  - 低頻度 (1/150)
  - 想定最大規模



※〇〇川は、整備中または整備予定の府・政令市管理河川を示したものである。  
 ※他の事業者の計画も見直されれば、同様に反映します。  
 ※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。



赤字黄色ハッチ:流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所  
 ※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**
- 堤防整備、河道掘削、堰改築、堰撤去、護岸補強
  - 砂防堰堤等の整備 ・天ヶ瀬ダム再開発
  - 雨水排水網整備、ポンプ場等の排水機能整備
  - 流水の貯留機能の拡大
  - 河川管理施設等の老朽化対策 ・堆積土砂撤去
  - 河道内樹木の伐採 ・森林整備
  - ため池等の整備、貯留施設整備
  - 事前放流等の実施・体制構築
  - 法指定による雨水浸透阻害行為の規制、貯留機能保全区域の指定の検討
  - 各家庭等における雨水貯留施設整備への助成
  - 開発行為に伴う調整池の設置 ・排水機場の機能保全 等

- 被害対象を減少させるための対策**
- 水害リスクマップを活用した立地適正化計画及び防災指針の策定
  - 条例等に基づき計画している安全なまちづくり
  - 水害リスクマップの作成
  - 法指定による浸水被害防止区域の指定の検討 等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**
- 地区タイムラインの活用
  - 要配慮者避難確保計画等の作成、支援
  - 広域避難計画の策定
  - ハザードマップ更新 ・まるごとまちごとハザードマップの整備
  - マイ・防災マップ、マイ・タイムラインの作成支援
  - 分りやすい防災気象情報の提供
  - 舟運による早期復旧等
  - V・R・AR等を用いた情報発信
  - 三次元河川管内図の整備
  - 河川防災ステーションの平時利活用の推進
  - 排水機場等の遠隔監視・操作化、自動化
  - 排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施
  - 避難行動に資する情報発信等の高度化及び防災情報の充実
  - 「局地的豪雨探知システム」の活用推進とゲリラ豪雨対策広域アクションプランに基づく適応策推進
  - 災害救援に寄与する浸水エリア外の道路ネットワーク整備
  - 雨量・水位観測装置の機能向上
  - 浸水センサの設置
  - 早期避難を支援する京都府内の水位・氾濫予測システムを構築し、精度検証(京都府管理河川を対象)
  - BIM/CIMなどの適用による三次元モデルの積極的な活用 等



※浸水リスクを示す浸水範囲については、リスクマップを公表している淀川河川事務所管理区間のみを表示している。

	氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<b>“量” の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画 (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策</li> </ul> </li> <li>○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な雨水貯留施設(いろは呑龍トンネル)整備やそれに合わせた雨水排水網整備</li> <li>・流域全体における地下貯留施設や雨水調整池、ため池、遊水機能を有した公園、防災調整池等の雨水貯留施設の整備</li> <li>また、公共下水道施設、下水道床上対策、排水路整備等の雨水排水網の整備</li> <li>・ポンプ場等の排水機能整備及び保全</li> <li>・各家庭等における雨水貯留施設整備への助成</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高台まちづくり</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画 (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策</li> </ul> </li> </ul>
<b>“質” の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・貯留機能保全区域の指定の検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地利用や住まい方の工夫</li> <li>・防災指針策定による居住誘導区域内の防災・減災対策の実施</li> <li>・浸水被害防止区域の指定の検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強い河川堤防の整備</li> <li>・水害リスクマップに基づく土地利用や住まい方の工夫</li> </ul> </li> <li>○多面的機能を活用した治水対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川防災ステーションの整備及び平時利活用の推進</li> <li>・陸上交通網の麻痺に備えた緊急用船着場整備や大堰閘門整備による舟運での早期復旧</li> </ul> </li> </ul>
<b>“手段” の強化</b>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インフラDX等の新技術の活用 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用</li> <li>・三次元河川管内図の整備</li> <li>・浸水センサの設置</li> <li>・排水機場等の遠隔監視・操作化、自動化</li> </ul> </li> </ul>

# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川(京都府域)分会 【位置図】

R6.3更新(2.0策定)

～みず・ひと繋る古都を支える流域対策の推進～

## ●グリーンインフラの取り組み 『ワンドなど変化に富んだ多様な生息環境の保全・再生』

- 宇治川のヨシ原や礫床、木津川の砂州河原に点在するたまりや瀬と淵、桂川の流水域と湛水域が連続する環境やワンドなどの環境に応じて、オオヨシキリをはじめとする鳥類やナカセコカワニナ、タナゴ類やヨドゼザラなどの魚介類といった、次世代に引き継ぐべき多様な生態系が存在する。
- 水辺にワンドやたまりが数多く存在し、水位の変動によって冠水・攪乱される区域が広範囲に存在し、変化に富んだ地形と固有種を含む多様な生態系を残すことを目標に、今後概ね20年間でヨドゼザラの模式産地であるワンドや魚がのぼりやすい川を整備するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



赤字黄色ハッチ:流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所  
 ※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

- 治水対策における多自然川づくり  
 生物の生息・生育環境の保全再生、ワンド保全・再生、魚がのぼりやすい川への再生、砂州保全
- 魅力ある水辺空間・賑わい創出  
 和東町木津川かわまちづくり、河川景観の保全  
 八幡市かわまちづくり、伏見地区かわまちづくり、  
 宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
  - 淀川環境委員会の提案をふまえた河川環境の整備と保全
  - 河川レンジャー制度による環境学習、動植物保護活動との連携
  - 小中学校における河川環境学習の実施
  - 住民団体と連携した水生生物調査の実施



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川（京都府域）分会【ロードマップ】

～みず・ひとと繋る古都を支える流域対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)

- 淀川水系(京都府域)の宇治川、木津川、桂川では上下流・本支川の流域全体を俯瞰しつつ国、府、市町村が一体となって「流域治水」を推進する。雨の降り方次第で、三河川が同時にピーク流量を迎えることもあり、その際は三川合流点が流れにくく、各支川の水位上昇を助長する。このため、淀川水系中流域では三川合流点への到達流量を低減、水位低下を図る流域治水対策が重要であり、以下の手順にて推進する。
  - 【短期】桂川と宇治川において河道掘削等を実施するとともに、天ヶ瀬ダム再開発及び川上ダムを完成させる。
  - 【中期】引き続き桂川と宇治川において河道掘削等を実施するとともに、桂川の堰撤去と木津川の無堤区間の堤防整備に着手する。
  - 【長期】河川整備計画で目標としている洪水を安全に流下させるため、引き続き河道掘削等を実施し、流域全体の安全度の向上を図る。
- あわせて、安全なまちづくりや内水被害軽減対策（雨水排水網、貯留施設の整備等）などの流域対策、タイムライン活用等のソフト対策を実施。

黄色ハッチ:流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所

※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

区分	対策内容	実施主体	工程			
			短期	中期	長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備、河道掘削、堰撤去	淀川河川事務所 京都府 京都市	宇治川・桂川・木津川 河道掘削完了 (淀川河川事務所)			
	流水の貯留機能の拡大	淀川ダム統合管理事務所 琵琶湖河川事務所 大戸川ダム工事事務所 水資源機構	天ヶ瀬ダム再開発完成 (琵琶湖河川事務所) 川上ダム完成 (水資源機構)			
	雨水排水網整備 貯留施設整備 (下水道浸水対策事業含む) 等	京都府 久御山町、城陽市、向日市、亀岡市、大山崎町、京都市、宇治市、八幡市、井手町、京田辺市 等	【貯留施設整備】 雨水調整池の整備 (久御山町)	【雨水排水網整備】 排水路整備事業 (京田辺市)	【貯留施設整備】 雨水貯留施設設置 (城陽市)	【雨水排水網整備】 公共下水道施設整備事業 (宇治市)
被害対象を減少させるための対策	「安全なまちづくり」に向けた取り組み(立地適正化計画策定)	長岡京市 等	計画変更 (長岡京市)	【雨水排水網整備】 下水道床上浸水対策事業 (京都市)	【貯留施設整備】 ため池整備 (京都市)	【貯留施設整備】 遊水機能を有した公園整備 (亀岡市)
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	ハザードマップ作成・更新 まるごとまちごとハザードマップの整備、避難体制等の強化 等	気象庁、環境省 京都府、京都市、 木津川市、京田辺市、精華町、宇治田原町、 和束町、笠置町、南山城村 等	避難所標識板の設置 (木津川市)	局地的豪雨探知システムの利活用促進と ゲリラ豪雨対策アクションプランの策定 (環境省)		
	災害救援に寄与する浸水エリア外の 道路ネットワーク整備	京都国道事務所	要配慮者避難確保計画の策定 (京田辺市)			

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川（京都府域）分会【ロードマップ】

～みず・ひと繕る古都を支える流域対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)

赤字黄色ハッチ:流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所

※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	長期
グリーンインフラの取組	生物の生息・生育環境の保全再生	近畿地方整備局 京都府	生物の生息・生育環境の保全再生		
	ワンド保全・再生	近畿地方整備局	ワンド保全・再生		
	魚がのぼりやすい川への再生	近畿地方整備局	魚がのぼりやすい川への再生		
	砂州保全	近畿地方整備局	砂州保全		
	和東町木津川かわまちづくり	近畿地方整備局	和東町木津川かわまちづくり		
	八幡市かわまちづくり	近畿地方整備局	八幡市かわまちづくり		
	伏見地区かわまちづくり	近畿地方整備局	伏見地区かわまちづくり		
	宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり	近畿地方整備局	宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり		
	公共空間の整備	京都府	公共空間の整備		
	河川景観の保全	近畿地方整備局 京都府	河川景観の保全		
	淀川環境委員会の提案をふまえた河川環境の整備と保全	近畿地方整備局	淀川環境委員会の提案をふまえた河川環境の整備と保全		
	河川レンジャー制度による環境学習、動植物保護活動との連携	近畿地方整備局	河川レンジャー制度による環境学習、動植物保護活動との連携		
	小中学校における河川環境学習の実施	近畿地方整備局 京都府	小中学校における河川環境学習の実施		
	住民団体と連携した水生生物調査の実施	近畿地方整備局 京都府	住民団体と連携した水生生物調査の実施		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川（京都府域）分会【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～みず・ひと繕る古都を支える流域対策の推進～

**短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率 約68%→約77%**

【宇治川】河道掘削を推進することにより、宇治川の治水安全度の向上。また、大島排水樋門の増設を完了することで、山科川（堂ノ川）木幡地区周辺の浸水被害の軽減を図る。

【桂川】大下津引堤と河道掘削により、近年で危険な水位まで到達した平成16年台風23号規模の洪水を桂川中下流区間で安全に流下させる。

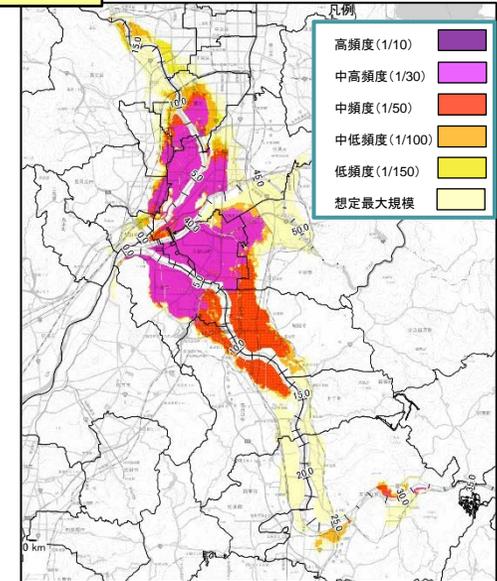
【木津川】木津川全体での堤防強化メニューの完了により、木津川の破堤リスクを軽減。

区分	対応内容	区間	工程		
			短期 (R2~R7)	中期 (R8~R15)	長期 (R16~R24)
関連事業			■		
浸水をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	宇治川	■	■	■
		桂川	■	■	■
		木津川	■	■	■
	堤防整備	桂川	■	■	■
		木津川	■	■	■
	樋門増設	宇治川	■	■	■
	堰改築等	各別、嵐山地区(堰前・必経堰)	■	■	■
	引堤	桂川	■	■	■
	築堤	木津川 船着・河原地区	■	■	■

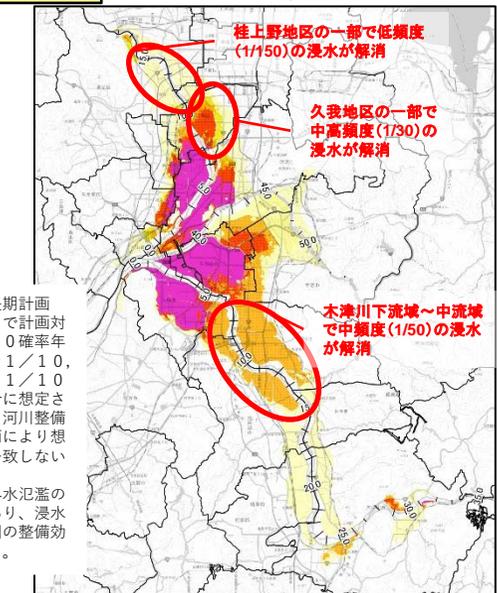
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。  
※短期整備効果における河川整備率は淀川水系全体の河川整備率を記載しています。

短期整備完了時の進捗	短期整備完了時の進捗	短期整備完了時の進捗
【宇治川】	【桂川】	【木津川】
河道掘削	河道掘削	堤防整備
向島地区 100%	桂上野地区 100%	八幡地区 100%
横島地区 20%	久我地区 100%	岩田大住地区 100%
樋門増設	横大路地区 20%	神矢地区 100%
大島地区 100%	大下津地区 10%	菅井地区 100%
	堰改築等 30%	吐師地区 100%
	引堤、旧堰撤去 100%	船着地区 100%
	堤防整備	富野地区 100%
	桂上野地区 100%	平尾地区 100%
	久我地区 100%	上粕地区 100%

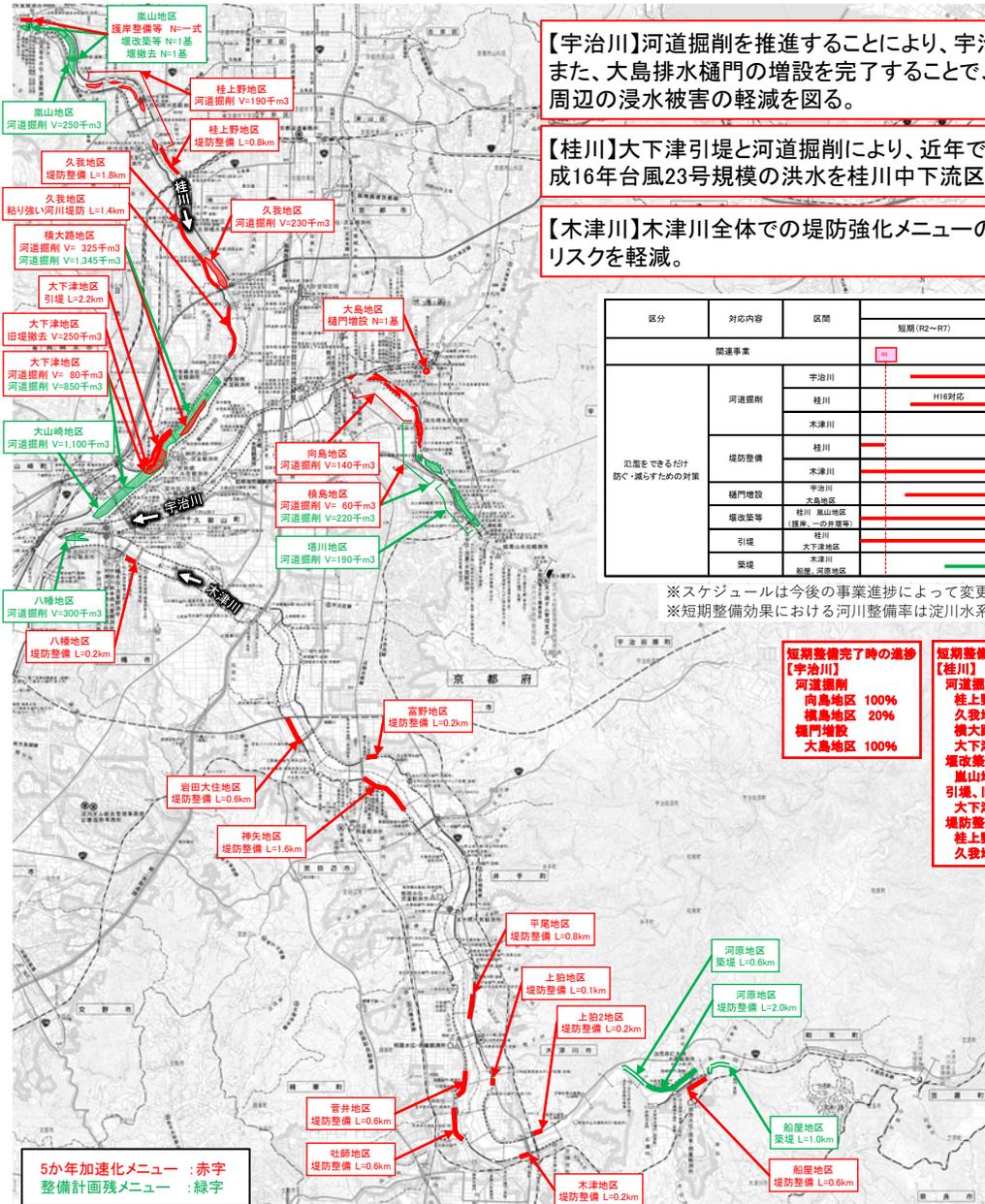
現状



短期



※この図は、河川の長期計画（河川整備基本方針）で計画対象としている1/150確率年の降雨及びその降雨を1/10、1/30、1/50、1/100の確率年とした場合に想定される浸水範囲であり、河川整備計画で目標とする降雨により想定される浸水範囲と一致しない場合があります。  
※国直轄区間からの外水氾濫のみを想定したものであり、浸水範囲の軽減効果は、国の整備効果のみを反映している。



5か年加速化メニュー：赤字  
整備計画残メニュー：緑字

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p><b>整備率：77%</b> (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p><b>51市町村</b> (令和5年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p><b>238施設</b> (令和4年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 <b>54箇所</b> (令和5年度実施分) 砂防関係施設の整備数 <b>5施設</b> (令和5年度完成分) ※施行中 78施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p><b>12市町村</b> (令和5年7月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 <b>268河川</b> (令和5年9月末時点) 内水浸水想定区域 <b>12団体</b> (令和5年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 洪水 <b>14,904施設</b> 土砂 <b>966施設</b> (令和5年9月末時点) 個別避難計画 <b>49市町村</b> (令和5年1月1日時点)</p>
---	---	---	---	---	--	--

※淀川水系全体の指標の数値を記載しています。※指標の数値は集計中のため変更の可能性があります。

**氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**

**遊水機能を有した公園整備計画(亀岡市)**



自然共生型の遊水地機能を備えた公園を整備

---

**雨水地下貯留施設の整備(京都府)**



雨水貯留施設「いろは呑龍トンネル」の整備により、桂川右岸地域の浸水対策を実施する。

**被害対象を減少させるための対策**

**立地適正化計画の見直し(長岡京市)**



「居住誘導区域」「都市機能誘導区域」の見直し  
・防災指針を追加し、災害リスクを出来る限り回避、低減させるために必要な取り組みを具体的に提示

**被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策**

**想定浸水深ラッピングによるまちなちHMの高度化(木津川市)**



この付近の木津川氾濫に最大想定浸水 5.2m 木津川市

---

**マイ防災マップによる地域防災力の向上(京田辺市)**



「京田辺市防災マップ」マイ防災マップ 土砂災害回避

淀川（大阪府域）分会

# 流域治水プロジェクト2.0

～気候変動下で水害と共生する社会をデザインする～

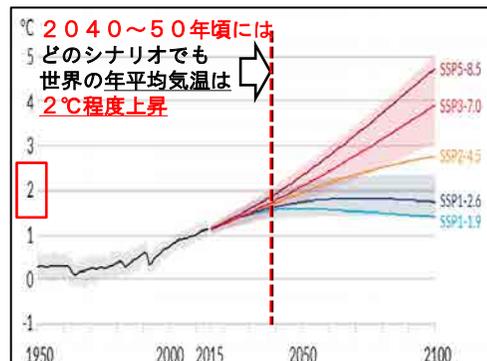
R6.3更新(2.0策定)

## ■現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算。  
**現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り**
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの関心の高まりに伴い治水機能以外の多面的な機能も考慮する必要
- インフラDX等の技術の進展

## ■流域治水プロジェクト更新の方向性

- 気候変動を踏まえた治水計画に見直すとともに、流域対策の目標を定め、あらゆる関係者による流域対策の充実
- 対策の“量”、“質”、“手段”の強化により早期に防災・減災を実現
- **気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を『流域治水プロジェクト2.0』として、全国109水系で順次更新し、流域関係者で共有**

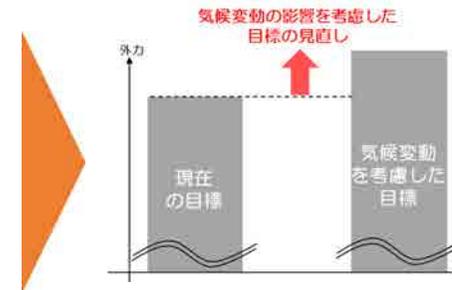


気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇相当	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100～1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



河川整備計画等についても、**気候変動を踏まえ安全度を維持するための目標外力の引き上げが必要**

## ■流域治水2.0のフレームワーク ～気候変動下で水害と共生するための3つの強化～

### “量”の強化

- ◆ 気候変動を踏まえた治水計画への見直し(2℃上昇下でも目標安全度維持)
- ◆ 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
- ◆ あらゆる治水対策の総動員

### “質”の強化

- ◆ 溢れることも考慮した減災対策の推進
- ◆ 多面的機能を活用した治水対策の推進

### “手段”の強化

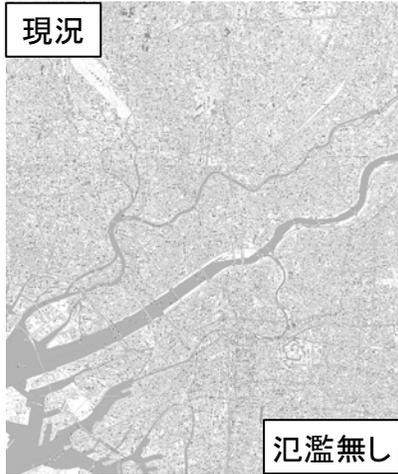
- ◆ 既存ストックの徹底活用
- ◆ 民間資金等の活用
- ◆ インフラDX等の新技術の活用

水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動

○気候変動による降雨量増加後の河川整備計画目標洪水が発生した場合、淀川流域(大阪府)では浸水被害は発生しない。  
(淀川水系河川整備計画はR3.8に、気候変動による降雨量増加を考慮して変更済み)

## ■気候変動に伴う水害リスク

国管理区間からの外水氾濫による浸水範囲・浸水家屋数



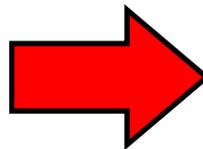
<参考>上流(桂川)の浸水範囲

河道: R2末時点  
外力:  
桂川 平成25年台風18号洪水  
宇治川 平成25年台風18号洪水  
木津川 昭和28年台風13号の降雨量1.1倍以上の洪水

氾濫無し

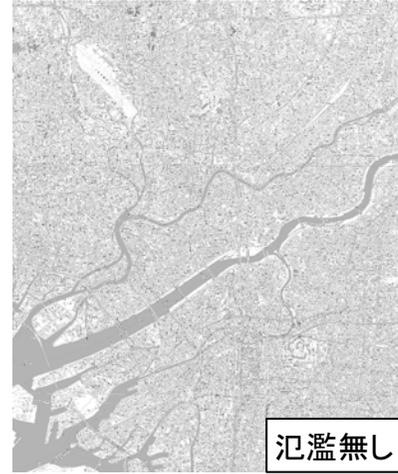
【目標①】  
KPI: 浸水家屋数

0戸 ⇒ 0戸



対策後

※上流改修を実施した場合においても現況の治水安全度を堅持するため、必要な対策を実施することで浸水被害は発生しない。



<参考>上流(桂川)の浸水範囲

河道: 整備計画完了時点  
外力:  
桂川 平成25年台風18号洪水  
宇治川 平成25年台風18号洪水  
木津川 昭和28年台風13号の降雨量1.1倍以上の洪水

氾濫無し

河道: R2末時点  
外力: 現行河川整備計画の目標流量(気候変動考慮)

河道: 整備計画完了時点  
外力: 現行河川整備計画の目標流量(気候変動考慮)

<現状・気候変動考慮>

<対策後>

## ■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の整備計画目標洪水に対する安全の確保

淀川本川: 0.0k~37.0k

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
減らす 氾濫を防ぐ、 被害を減らす	国	計画規模洪水を安全に流下させる	河道掘削(淀川): 240万m <sup>3</sup> 橋梁架替	概ね30年
減らす 被害を減らす	大阪府	土砂災害の危険から住宅を守る	土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度	概ね20~30年
	高槻市 枚方市 八尾市	水害リスクを踏まえたまちづくり及び居住誘導区域内の防災・減災対策による居住者の命を守る	立地適正化計画の見直し及び防災指針の策定 計画等に基づく対策の実施	-
早期復旧・ 被害の軽減・ 復興	国	土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討	多段階の浸水想定図(浸水頻度毎の浸水深図)及び水害リスクマップ(浸水深毎の浸水頻度)の整備	-
	淀川(大阪府域)分会 全18市町	円滑かつ迅速な避難の確保	要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進と、避難訓練実施支援	-

【目標②】特定都市河川(寝屋川)流域において1/30規模降雨の洪水・1/10雨水出水による浸水被害を防止

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
減らす 氾濫を防ぐ、 被害を減らす	大阪府	洪水を安全に流下させる	地下河川、流域調整池、遊水池、河川整備等	概ね20年~30年
	寝屋川流域市(12市)	浸水の防止・軽減	雨水貯留浸透施設等の整備	
減らす 被害を減らす	大阪府	貯留機能の保全 新たな住居に対し、立地を規制する 居住者の人命を守る	貯留機能保全区域、浸水被害防止区域等の指定 (流域水害対策計画の変更)	-

【目標③】高槻市における内水被害の軽減(下水道計画規模降雨以上の雨水出水による浸水被害を軽減)

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
減らす 氾濫を防ぐ、 被害を減らす	高槻市(下水道)	重点地区(市内の浸水多発地区)の浸水被害の最小化	雨水貯留浸透施設整備 雨水幹線整備	概ね10年

# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川(大阪府域)分会 【位置図】

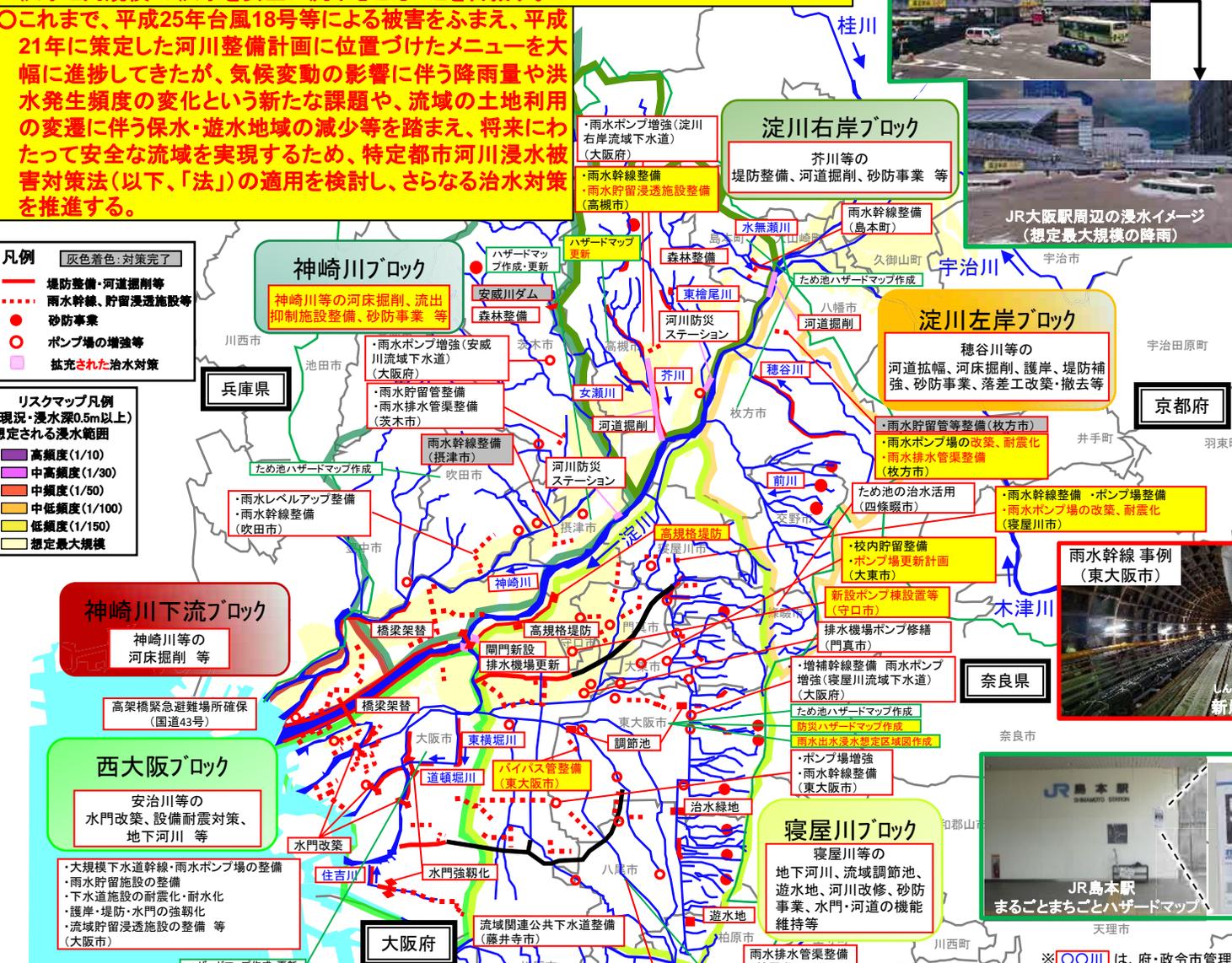
R6.3更新(2.0策定)

～滯輝く関西経済圏を支える流域対策～

○令和3年8月に淀川水系河川整備計画を変更し、淀川水系の大阪府域では、気候変動を考慮(雨量1.1倍)し、頻繁する豪雨に対して、国管理区間においては、戦後最大規模の洪水と同規模の洪水を安全に流下させることを目指す。

○これまで、平成25年台風18号等による被害をふまえ、平成21年に策定した河川整備計画に位置づけたメニューを大幅に進捗してきたが、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来にわたって安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法(以下、「法」)の適用を検討し、さらなる治水対策を推進する。

- 凡例**
- 灰色着色: 対策完了
  - 堤防整備・河道掘削等
  - ⋯ 雨水幹線、貯留浸透施設等
  - 砂防事業
  - ポンプ場の増強等
  - 拡充された治水対策
- リスクマップ凡例**  
(現況・浸水深0.5m以上)  
想定される浸水範囲
- 高頻度(1/10)
  - 中高頻度(1/30)
  - 中頻度(1/50)
  - 中低頻度(1/100)
  - 低頻度(1/150)
  - 想定最大規模

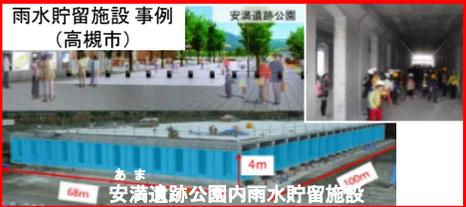


赤字黄色ハッチ: 流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所  
※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**
- 高規格堤防整備、築堤、堤防強化
  - 河道拡幅・掘削、橋梁架替
  - 護岸、落差工改築・撤去
  - 砂防事業、森林整備及び保全
  - 閘門新設、水門改築、施設耐震補強
  - 高架橋緊急避難場所確保
  - 河川防災拠点整備、河川防災ステーション整備
  - ダム建設、ダムの堆砂除去
  - 事前放流等の実施・体制構築
  - 地下河川、流域調節池、遊水地
  - 下水道等の排水施設整備・改修・修繕・更新
  - 雨水貯留浸透施設の整備
  - ため池の治水活用
- 法指定による雨水浸透阻害行為の規制、貯留機能保全区域の指定  
・各家庭等における雨水貯留浸透施設整備への助成 等

- 被害対象を減少させるための対策**
- 土地利用誘導
  - 水害リスクマップの作成
  - 開発行為に対する流出抑制対策指導
- 法指定による浸水被害防止区域の指定 等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**
- 洪水ハザードマップ作成・更新
  - ため池ハザードマップ作成
  - 防災教育・啓発活動等の推進
  - 分かりやすい防災気象情報の提供
  - 要配慮者利用施設における避難計画の策定支援
  - タイムラインの作成・運用
  - 広域避難計画策定
  - 舟運による早期復旧等
  - 三次元河川管内図の整備
  - VR・AR等を用いた情報発信
  - 三次元河川管内図の整備
  - 排水機場等の遠隔監視・操作化、自動化
  - マイ・防災マップ、マイ・タイムラインの作成支援
  - ホットライン構築
  - 水位計・監視カメラの設置、監視体制の拡充
  - 河川防災ステーションの平時活用の推進
  - ゲリラ豪雨対策 広域アクションプランに基づく適応策推進
  - BIM/CIMなどの適用による三次元モデルの積極的な活用 等



**寝屋川流域水害対策計画変更のロードマップ**

対策区分	流域関係者	工程			
		R5~R7	R8	R9~	R16
流域水害対策計画の変更	大阪府関係市町等	計画検討			
		計画変更			
				浸水被害対策の実施 (区域の指定)	

※〇〇川は、府・政令市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。  
※他の事業者の計画も見直されれば、同様に反映します。  
※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

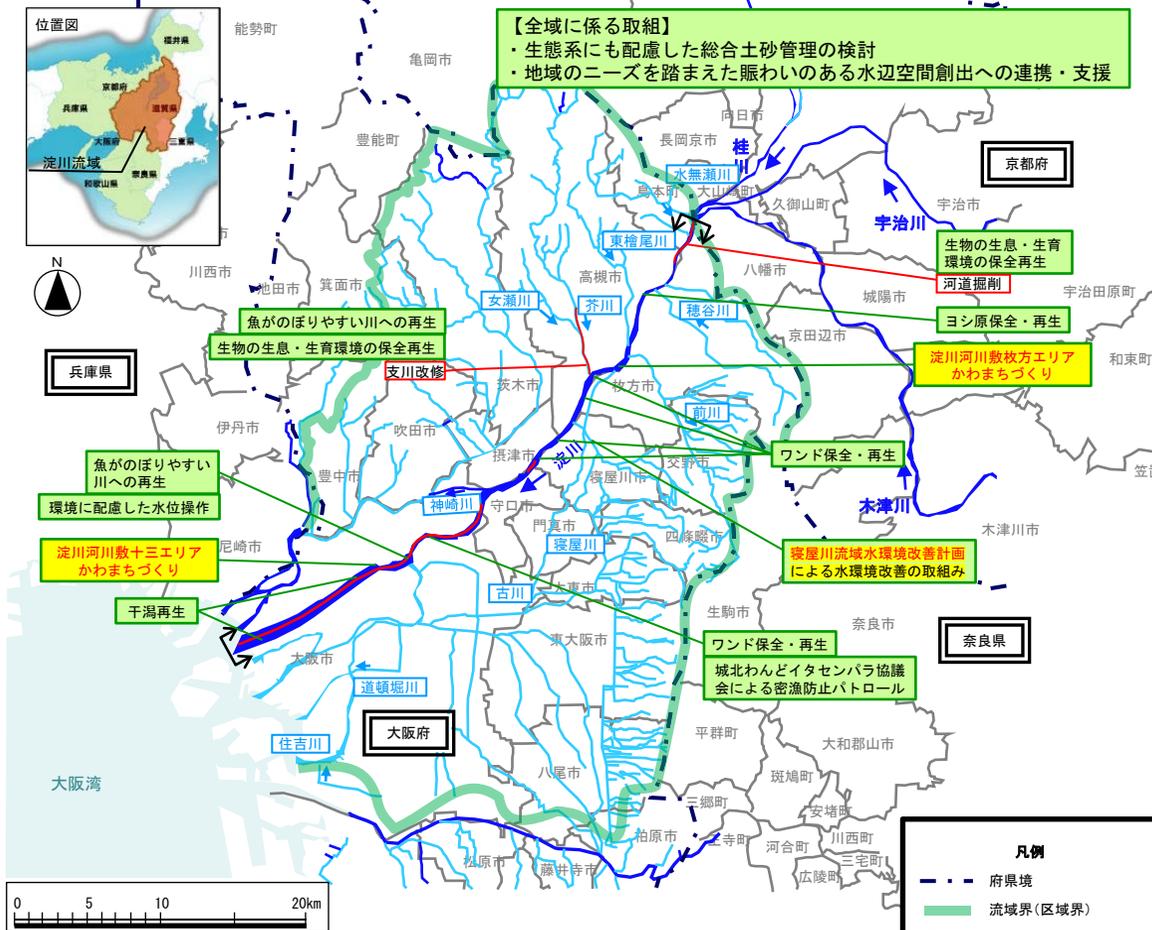
	氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<b>“量” の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策</li> </ul> </li> <li>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域水害対策計画に基づくハード対策</li> </ul> </li> <li>○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川流域での地下河川及び大規模下水道幹線整備</li> <li>・流域全体における雨水貯留管や合流管渠、公共下水道施設等の雨水幹線整備・増強</li> <li>また、公園や駅等の地下貯留施設やため池等の雨水貯留浸透施設の整備</li> <li>・雨水ポンプ場の整備・増強・保全</li> <li>・各家庭等における雨水貯留施設整備への助成</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高規格堤防</li> <li>・高台まちづくり</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策</li> </ul> </li> <li>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域水害対策計画に基づくソフト対策</li> </ul> </li> </ul>
<b>“質” の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・貯留機能保全区域の指定</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地利用や住まい方の工夫</li> <li>・浸水被害防止区域の指定</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強い河川堤防の検討</li> </ul> </li> <li>○多面的機能を活用した治水対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川防災ステーションの整備及び平時利活用の推進</li> <li>・陸上交通網の麻痺に備えた緊急用船着場整備や大堰閘門整備による舟運での早期復旧</li> </ul> </li> </ul>
<b>“手段” の強化</b>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インフラDX等の新技術の活用 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用</li> <li>・三次元河川管内図の整備</li> <li>・排水機場等の遠隔監視・操作化、自動化</li> </ul> </li> </ul>

～滯輝く関西経済圏を支える流域対策～

## ●グリーンインフラの取り組み 『ワンドなど変化に富んだ多様な生息環境の保全・再生』

赤字黄色ハッチ:流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所

- 三川合流点より下流の淀川では、鵜殿に代表されるヨシ原、寄り洲、ワンド・たまりや干潟などの環境に応じて、イタセンバラをはじめとする魚介類、オオヨシキリや猛禽類などの鳥類、塩性植物など、多くの動植物が見られる。こうした次世代に引き継ぐべき多様な生態系を守ろうとする住民活動も活発である。
- 水辺にワンドやたまりが数多く存在し、水位の変動によって冠水・攪乱される区域が広範囲に存在し、変化に富んだ地形と固有種を含む多様な生態系を残すことを目標に、今後、概ね20年間でイタセンバラ等の在来種が生息するワンド・たまりを保全・再生するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

### ●自然環境の保全・復元などの自然再生

干潟再生、ヨシ原保全・再生、ワンド保全・再生

### ●治水対策における多自然川づくり

生物の生息・生育環境の保全再生、魚がのぼりやすい川への再生

### ●魅力ある水辺空間・賑わい創出

淀川河川敷十三エリアかわまちづくり、淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり

- ### ●自然環境が有する多様な機能活用の取組み
- ・淀川環境委員会の提案をふまえた河川環境の整備と保全
  - ・河川レンジャー制度による環境学習、動植物保護活動との連携
  - ・小中学校における河川環境学習の実施
  - ・住民団体と連携した水生生物調査の実施
  - ・城北わんどイタセンバラ協議会による密漁防止パトロール
  - ・住民と連携した外来生物駆除
  - ・環境に配慮した水位操作
  - ・寝屋川流域水環境改善計画による水環境改善の取組み
  - ・公園等賑わいの場としての活用
  - ・街路樹の更新にあわせた雨水貯留機能等の導入



# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川(大阪府域)分会【ロードマップ】

～滯輝く関西経済圏を支える流域対策～

R6.3更新(2.0策定)

- 淀川(大阪府域)では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、府、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。  
大阪府域は複数河川が貫流する低平地に形成された高度な都市構造を有し、洪水、津波、高潮、内水氾濫等により大規模な浸水被害が発生するリスクがあることから、河川改修やダム整備と併せて、下水道施設整備、流出を抑制する雨水貯留施設等の拡大や河川防災ステーション整備、広域避難計画策定等の流域治水対策を実施する。  
【短期】計画規模洪水を安全に流下させるため、橋梁架替や河道掘削、堤防整備等と併せて、下水道施設整備や貯留浸透施設等の整備を推進する。また、淀川大堰閘門を整備することで災害時の避難や資材運搬など危機管理機能の強化を図る。安威川ダムを完成させることにより、神崎川流域の安全度向上を図る。  
【中期】計画規模洪水を安全に流下させるため、阪神なんば線淀川橋梁の架替を完了させるとともに、河道掘削、堤防整備等を推進する。  
【長期】大規模な浸水被害から人命や資産を守るため、河道掘削、堤防整備等と併せて流出抑制対策等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

赤字黄色ハッチ:流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所

区分	主な対策内容	実施主体	工程			
			短期	中期	なんば線橋梁架替完成 (淀川河川事務所)	長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備、河道掘削、橋梁架替 河川防災ステーション	大阪府、大阪市、摂津市、 淀川河川事務所	水門強靱化完成(大阪市)(R4完)	淀川大堰閘門新設完成 (淀川河川事務所)		
	地震・津波、高潮対策、閘門新設	大阪府、大阪市 淀川河川事務所				
	ダム建設	大阪府、淀川ダム統合管理事務所、琵琶湖河川事務所、大戸川ダム工事事務所、水資源機構	川上ダム完成 (水資源機構)	安威川ダム完成 (大阪府)	天ヶ瀬ダム再開発完成 (琵琶湖河川事務所)	3大水門改築完成 (大阪府)
	砂防事業、森林整備・保全	大阪府、高槻市、枚方市				
	雨水貯留浸透施設、雨水幹線整備、 下水道施設増強、耐水化	大阪府、大阪市、吹田市、高槻市、枚方市、 茨木市、寝屋川市、柏原市、藤井寺市、東大阪 市、島本町、四條畷市				
	排水施設整備、改修、修繕、更新	大阪府、大阪市、高槻市、枚方市、寝屋川 市、門真市、東大阪市、大東市 等				
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画・居住誘導	高槻市、枚方市、八尾市 等				
	家屋の耐水化啓発	高槻市 等				
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難確保計画策定支援	大阪市、高槻市、枚方市、摂津市 等				
	ハザードマップ作成、防災教育、避難訓練 等	大阪市、吹田市、高槻市、枚方市、摂津市、 藤井寺市、東大阪市、島本町、八尾市 等				
	防災気象情報の改善	大阪管区気象台				
	広域アクションプラン(ゲリラ豪雨対策)	環境省、大阪府 等				
グリーンインフラの取組	※詳細は次ページ					

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川(大阪府域)分会【ロードマップ】

～滯輝く関西経済圏を支える流域対策～

R6.3更新(2.0策定)

赤字黄色ハッチ:流域治水プロジェクト2.0で追記した箇所

※流域治水プロジェクト2.0で追加した対策等については、今後、具体的な対策内容を検討する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	長期
グリーンインフラの取組	干潟再生	近畿地方整備局	試験施工		
	ヨシ原保全・再生	近畿地方整備局	ヨシ原保全・再生		
	ワンド保全・再生	近畿地方整備局	ワンド保全・再生		
	生物の生息・生育環境の保全再生	近畿地方整備局	生物の生息・生育環境の保全再生		
	魚がのぼりやすい川への再生	近畿地方整備局	魚がのぼりやすい川への再生		
	淀川河川敷十三エリアかわまちづくり	近畿地方整備局	淀川河川敷十三エリアかわまちづくり		
	淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり	近畿地方整備局	淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり		
	淀川環境委員会の提案をふまえた河川環境の整備と保全	近畿地方整備局	淀川環境委員会の提案をふまえた河川環境の整備と保全		
	河川レンジャー制度による環境学習、動植物保護活動との連携	近畿地方整備局	河川レンジャー制度による環境学習、動植物保護活動との連携		
	小中学校における河川環境学習の実施	近畿地方整備局・大阪府	小中学校における河川環境学習の実施		
	住民団体と連携した水生生物調査の実施	近畿地方整備局	住民団体と連携した水生生物調査の実施		
	城北わんどイタセンバラ協議会による密漁防止パトロール	近畿地方整備局	城北わんどイタセンバラ協議会による密漁防止パトロール		
	住民と連携した外来生物駆除	近畿地方整備局	住民と連携した外来生物駆除		
	環境に配慮した水位操作	近畿地方整備局	環境に配慮した水位操作		
	寝屋川流域水環境改善計画による水環境改善の取組み	近畿地方整備局・大阪府・寝屋川流域市(12市)	寝屋川流域水環境改善計画による水環境改善の取組み		
	公園等憩いの場としての活用	大阪府	公園等憩いの場としての活用(治水緑地等)		
街路樹の更新にあわせた雨水貯留機能等の導入	大阪府	街路樹の更新にあわせた雨水貯留機能等の導入			

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

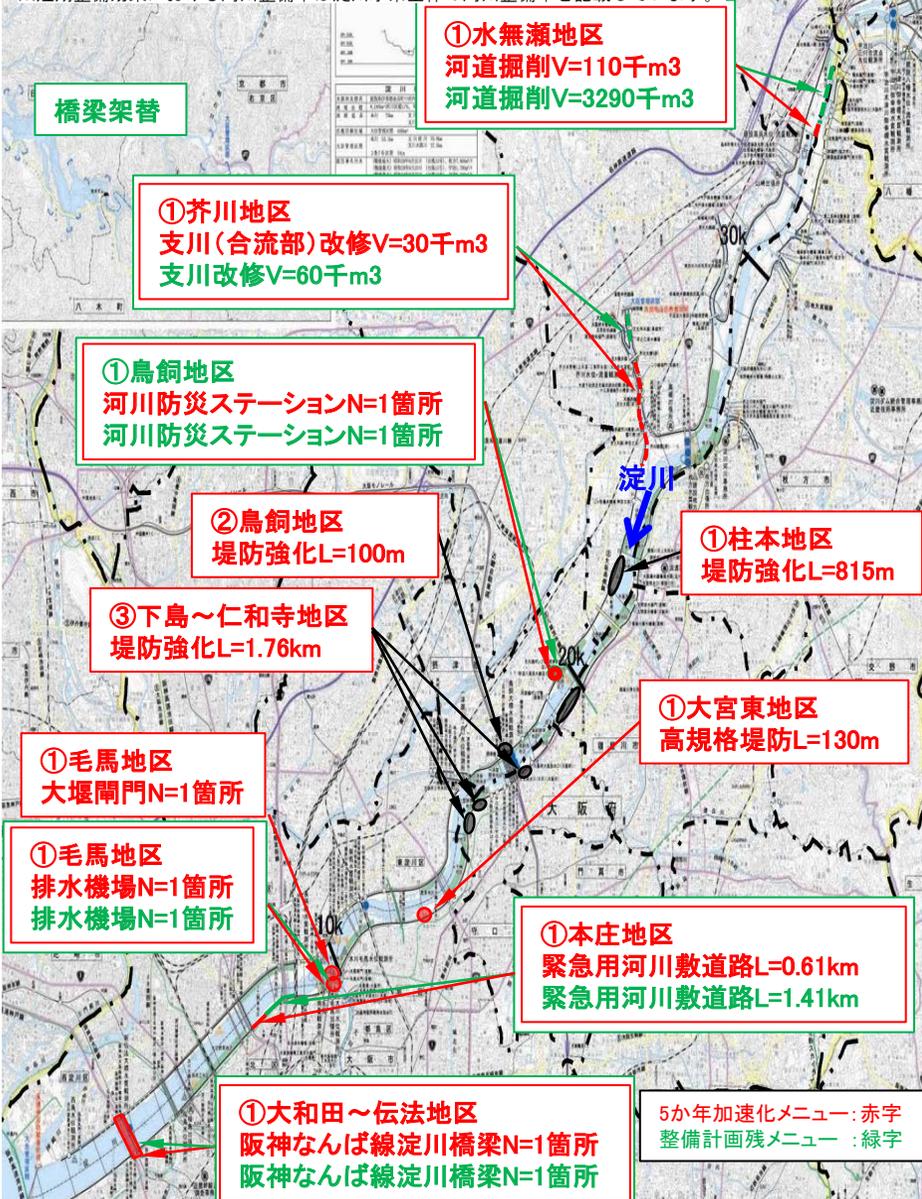
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 淀川（大阪府域）分会【事業効果（国直轄区間）の見える化】

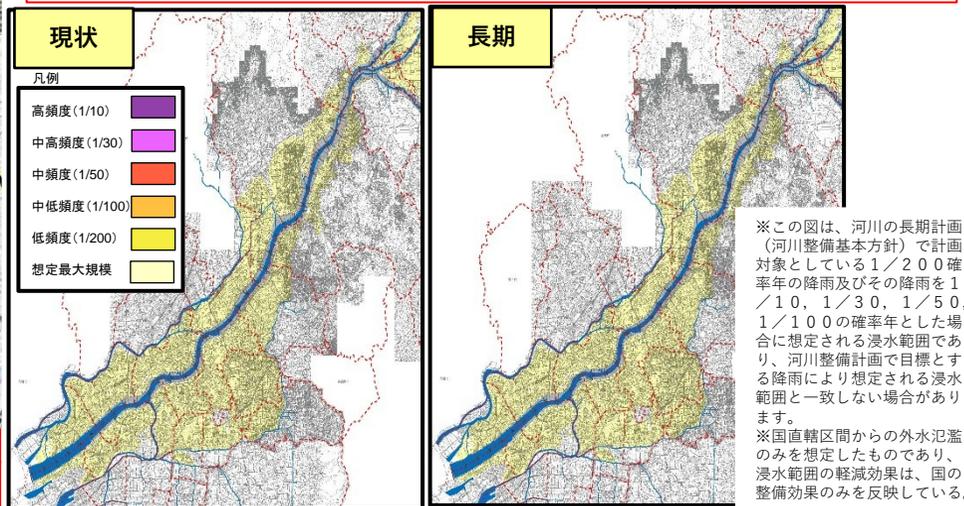
～濔輝く関西経済圏を支える流域対策～

**短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率 約68%→約77%**

※短期整備効果における河川整備率は淀川水系全体の河川整備率を記載しています。



淀川大堰閘門整備を大阪・関西万博(R7)前のR6までに完了させることで、防災力を向上させるとともに、舟運により地域振興に寄与。



区分	対策内容	区間	工程		
			短期 (R2～R7年)	中期 (R8～R15年)	長期 (R16～R34年)
関連事業			R4		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	①水無瀬地区	3%		100%
	支川改修	①芥川地区	30%	100%	
	堤防強化	①柱本地区	100%		
		②鳥飼地区	100%		
		③下島～仁和寺地区	100%		
	河川防災ステーション	①摂津地区	50%	100%	
	高規格堤防	①大宮東地区	100%		
	大堰閘門	①毛馬地区	100%		
	排水機場	①毛馬地区	8%		100%
	緊急用河川敷道路	①本庄地区	30%	100%	
阪神なんば線橋梁	①大和田～伝法地区	60%	100%		
橋梁架替				100%	

【短期整備完了時の進捗】  
 河道掘削  
 ①水無瀬地区 3%  
 支川改修  
 ①芥川地区 30%  
 河川防災ステーション  
 ①摂津地区 50%  
 高規格堤防  
 ①大宮東地区 100%  
 大堰閘門  
 ①毛馬地区 100%  
 排水機場  
 ①毛馬地区 8%  
 緊急用河川敷道路  
 ①本庄地区 30%  
 阪神なんば線橋梁  
 ①大和田～伝法地区 60%

※スケジュールは、今後の事業進捗によって変更となる場合があります。

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p><b>整備率：77%</b> (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p><b>51市町村</b> (令和5年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p><b>238施設</b> (令和4年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 <b>54箇所</b> (令和5年度実施分) 砂防関係施設の整備数 <b>5施設</b> (令和5年度完成分) ※施行中 78施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p><b>12市町村</b> (令和5年7月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 <b>268河川</b> (令和5年9月末時点) 内水浸水想定区域 <b>12団体</b> (令和5年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 洪水 <b>14,904施設</b> 土砂 <b>966施設</b> (令和5年9月末時点) 個別避難計画 <b>49市町村</b> (令和5年1月1日時点)</p>
---	---	---	---	---	--	--

※淀川水系全体の指標の数値を記載しています。※指標の数値は集計中のため変更の可能性があります。

**氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**

### 河川・下水道などにおける対策(寝屋川流域)

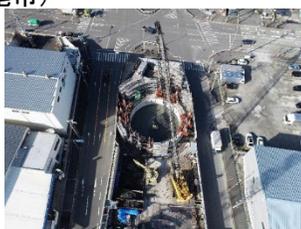
河川、下水道等が一体となった治水対策を実施しており、地下河川、下水道増補幹線、遊水池、調整池等の整備を推進。

【令和4年度の主な実績】

- 寝屋川北部地下河川 城北立坑築造
- 恩智川(法善寺)多目的遊水池
- 池床掘削、管理橋上部工 躯体築造工
- 布施公園調節池 躯体築造工
- 加納元町調節池 I期発進立坑築造
- 門真守口増補幹線 シールド工
- 新岸田堂幹線 シールド工(東大阪市施工)
- 流域貯留浸透施設の整備(4市4校1公園)
- ため池の治水活用(八尾市)



寝屋川北部地下河川  
城北立坑築造工事



加納元町調節池(I期)

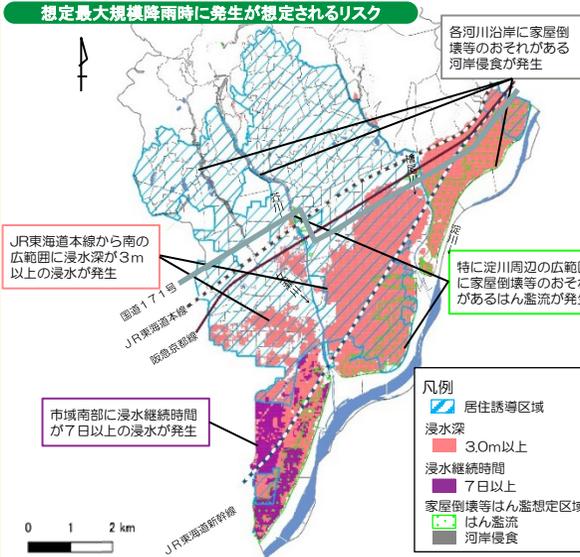
<大阪府>

**被害対象を減少させるための対策**

### 居住誘導区域見直し及び防災指針の策定

平成29年3月に策定した高槻市立地適正化計画の居住誘導区域は災害リスクを踏まえ設定しているが、昨今の頻発化・激甚化する自然災害への対応や法改正の主旨を踏まえ、水害リスクについて、居住誘導区域を見直すとともに、防災指針を追加する変更を行う。

想定最大規模降雨時に発生が想定されるリスク



各河川沿岸に家屋倒壊等のおそれがある河岸侵食が発生

JR東海道本線から南の広範囲に浸水深が3m以上の浸水が発生

市域南部に浸水継続時間が7日以上浸水が発生

特に淀川周辺の広範囲に家屋倒壊等のおそれがあるはん濫流が発生

凡例

- 居住誘導区域
- 浸水深 3.0m以上
- 浸水継続時間 7日以上
- 家屋倒壊等はん濫想定区域
- はん濫流
- 河岸侵食

<高槻市>

**被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策**

### まるごとまちごとハザードマップの増設

平成30年3月に阪急水無瀬駅に設置したまるごとまちごとハザードマップを令和2年11月にJR島本駅、町立第三小学校、同第四小学校、同第一中学校に増設。



浸水深4.6m第四小学校正門



浸水深2.2mJR島本駅東口



想定浸水深 2.2m

<島本町>

猪名川分会

# 流域治水プロジェクト2.0

R6.3更新(2.0策定)

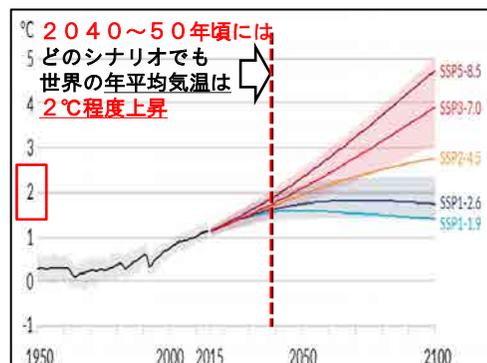
～気候変動下で水害と共生する社会をデザインする～

## ■現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算。  
**現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り**
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの関心の高まりに伴い治水機能以外の多面的な機能も考慮する必要
- インフラDX等の技術の進展

## ■流域治水プロジェクト更新の方向性

- 気候変動を踏まえた治水計画に見直すとともに、流域対策の目標を定め、あらゆる関係者による流域対策の充実
- 対策の“量”、“質”、“手段”の強化により早期に防災・減災を実現
- **気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を『流域治水プロジェクト2.0』として、全国109水系で順次更新し、流域関係者で共有**

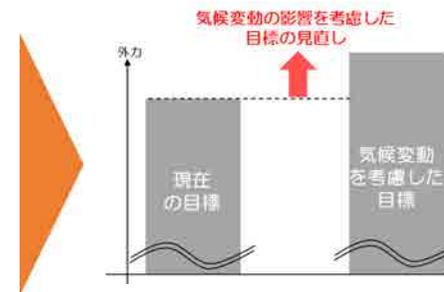


気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇相当	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100～1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



河川整備計画等についても、**気候変動を踏まえ安全度を維持するための目標外力の引き上げが必要**

## ■流域治水2.0のフレームワーク ～気候変動下で水害と共生するための3つの強化～

### “量”の強化

- ◆ 気候変動を踏まえた治水計画への見直し(2℃上昇下でも目標安全度維持)
- ◆ 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
- ◆ あらゆる治水対策の総動員

### “質”の強化

- ◆ 溢れることも考慮した減災対策の推進
- ◆ 多面的機能を活用した治水対策の推進

### “手段”の強化

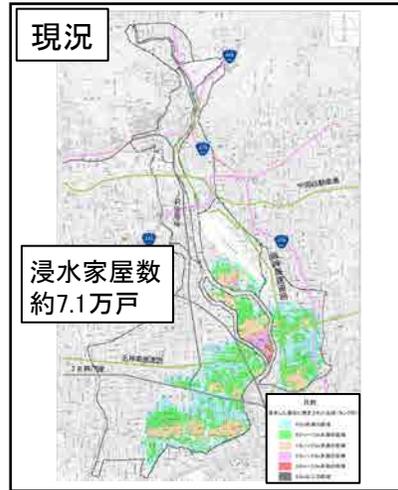
- ◆ 既存ストックの徹底活用
- ◆ 民間資金等の活用
- ◆ インフラDX等の新技術の活用

水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動

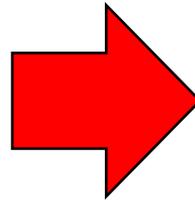
○河川整備計画目標洪水が発生した場合、猪名川流域では浸水家屋数が約7.1万戸になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。(淀川水系河川整備計画はR3.8に、気候変動による降雨量増加を考慮して変更済み)

## ■気候変動に伴う水害リスクの増大

国管理区間からの外水氾濫による浸水範囲・浸水家屋数



<現況>



対策後



<対策後>

【目標①】  
KPI: 浸水家屋数  
約7.1万戸⇒0戸

## ■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後のS35洪水規模に対する安全の確保

猪名川本川: 0.0k~12.6k 藻川0.0k~4.4k

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約7.1万戸の浸水被害を解消	河道掘削: 103万㎡<旧計画の2.2倍> 堰改築: 3箇所 橋梁補強: 1橋	概ね30年
	兵庫県	流出抑制による浸水被害(外水・内水)の軽減	更なるため池の活用、 更なる雨水貯留浸透施設の整備	—
被害対象を減らす	大阪府	土砂災害の危険から住宅を守る	土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度	概ね20~30年
早期復旧・復興・被害の軽減	国	土地利用や住まい方の工夫及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討	多段階の浸水想定図及び水害リスクマップの作成・公表	—
	大阪府・兵庫県	住民の適切な避難判断の支援	河川水位、雨量、河川監視カメラ画像の発信	
	各市町	自然災害による被害の軽減	洪水等ハザードマップの作成・公表・周知・啓発	

【目標②】猪名川流域整備計画による総合治水対策

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国 各市町	10年に1回程度の洪水を安全に流下させる	<流域対策> 市街化調整区域の保持 防災調整池等の設置 他 <河川対策> 流域対策に合わせた河川改修 S28洪水規模対応の河川改修 <その他対策> 警報避難システムの確立 水防管理体制の強化 他	概ね10年

# 淀川水系流域治水プロジェクト 猪名川分会【位置図】

R6.3更新(2.0策定)

～ 総合治水と流域治水による猪名川流域の治水安全度のさらなる向上 ～

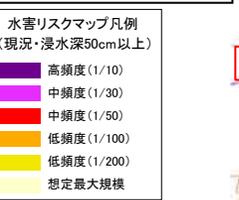
- 猪名川では、戦後最大洪水である昭和35年台風16号洪水の発生により、猪名川上下流部において甚大な被害が発生したこと等を踏まえ、以下の取り組みを一層推進していくものとし、更に国管理区間においては、気候変動(2℃上昇時)を考慮した戦後最大洪水(昭和35年台風16号)の降雨量を1.1倍とした洪水を安全に流下させることを目指す。
- 猪名川流域においては、昭和30年代以降の急激な市街化の進展に対し、流域が一体となった総合的な治水対策の取り組みを進めてきたが、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水機能の減少等を踏まえ、将来に渡って安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法(以下「法」)の適用を検討し、更なる治水対策を推進する。

赤字黄色ハッチ:R5.3月時点からの更新事項  
灰色ハッチ:対策完了



凡例

- 猪名川流域治水プロジェクト対象範囲
- 大臣管理区間
- 堤防整備・堤防強化
- 河道掘削・樹木伐採・低水護岸
- 堰改築・床固撤去・橋梁補強・橋梁改築
- ポンプ場の新設・増強
- 砂防事業(堰堤)等



- ### ■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・島の内地区の防災活動拠点の整備、堤防強化(堤防拡幅)等
  - ・左門殿川、神崎川、庄下川の河道(河床)掘削、河道拡幅、築堤、橋梁改築、耐震対策等
  - ・猪名川上流部(出在家地区・多田院地区等)及び中下流部の河道(河床)掘削、護岸整備、堰改築・床固撤去、築堤、橋梁改築及び一庫ダムの暫定放流の解消
  - ・一庫ダム及び箕面川ダムの事前放流等の実施・体制構築(関係者:国、兵庫県、大阪府、水資源機構、土地改良区、川西市、伊丹市、尼崎市、池田市、阪神水道企業団など)
  - ・下水道事業による雨水管渠の整備、老朽化対策、雨水ポンプ場の新設・増強、管渠施設・処理場・ポンプ場の耐震化
  - ・更なる流出抑制対策の雨水貯留浸透施設の整備、開発行為に伴う調整池の設置、ため池等の治水利用
  - ・森林整備・保全等の治山対策、砂防事業(堰堤)の推進による雨水・土砂・流木の流出抑制対策
- ・法指定による雨水浸透阻害行為の規制、貯留機能保全区域の指定 等

- ### ■被害対象を減少させるための対策
- ・建物等の耐水機能の確保・維持(敷地の嵩上げ、電気設備等の上階設置)
  - ・土地利用誘導(立地適正化計画の見直し等)
- ・法指定による浸水被害防止区域の指定 等

- ### ■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・ハザードマップの作成・周知等
  - ・避難に資するマップ等の整備・充実・周知
  - ・避難指示等による判断・伝達マニュアルの整備・発令支援
  - ・避難行動に資する情報発信の充実等
  - ・応急的な避難場所の確保
  - ・要配慮者施設における避難行動の支援
  - ・防災教育に関する講習会・避難訓練等の実施、防災広報の取組
  - ・一庫ダムの効率的運用の検討
  - ・流域タイムラインの作成・運用
  - ・タイムライン(マイ・タイムライン、マイ避難カード、水害対応等)の作成・支援
  - ・「局地的豪雨探知システム」の活用推進とゲリラ豪雨対策アクションプランに基づく対策事例創出
  - ・兵庫県住宅再建共済制度(フェニックス共済)への加入促進
  - ・広域避難体制の構築、検討支援
  - ・水防団(消防団)等による水防活動、水防活動の担い手確保及び支援、関係機関が連携した水防訓練
  - ・水防団や地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検
  - ・庁舎や大規模工場等の自衛水防の推進
  - ・氾濫水の排水計画と排水訓練の実施
  - ・水位計・監視カメラ・簡易量水標の設置、監視体制拡充
  - ・水害リスクマップを活用した立地適正化計画策定
  - ・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用等

※〇〇川は、府県管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。  
※兵庫県は、総合治水条例(H24施行)に基づき、河川・下水道対策、流域対策、減災対策の取組を推進中である。  
※具体的な対策内容については、主な対策を記載しており、今後の調査・検討により変更となる場合がある。  
※他の事業者の計画も見直されれば、同様に反映する。  
※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映する。  
※浸水リスクを示す浸水範囲については、リスクマップを公表している猪名川河川事務所管理区間のみを表示している。

	氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<b>“量” の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画 (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策</li> <li>・雨水管理総合計画に基づくハード対策</li> </ul> </li> <li>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域水害対策計画に基づくハード対策</li> </ul> </li> <li>○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる貯留施設の検討</li> <li>・更なるため池、「田んぼダム」、 雨水貯留浸透施設等の整備の検討</li> <li>・森林の整備及び保全</li> <li>・開発行為に伴う調整池の設置 (法指定により更なる規制の検討)</li> </ul> </li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画 (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策</li> <li>・雨水管理総合計画に基づくソフト対策</li> </ul> </li> <li>○流域対策の目標を定め、 役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域水害対策計画に基づくソフト対策</li> </ul> </li> <li>○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの効率的運用の検討</li> </ul> </li> </ul>
<b>“質” の強化</b>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物等の耐水機能の確保・維持 ※敷地の嵩上げ、電気設備等の上階設置</li> <li>・特定都市河川指定及び流域水害対策計画 に基づく土地利用や住まい方の工夫検討</li> <li>・法指定による浸水被害防止区域の指定検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・多段階の浸水想定図及び水害リスクマップを 活用した土地利用や住まい方の工夫</li> </ul> </li> </ul>
<b>“手段” の強化</b>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インフラDX等の新技術の活用 ＜具体の取組＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な 活用</li> </ul> </li> </ul>

※特定都市河川の指定や流域水害対策計画の策定に向けた検討を実施し、更なる治水対策を推進。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 猪名川分会【位置図】

～ 総合治水と流域治水による猪名川流域の治水安全度のさらなる向上 ～

## ●グリーンインフラの取り組み 『多様な生物が生息する人々と連携した河川環境の回復』

- 近年の猪名川では、レキ河原の減少や湿地環境の減少、縦断連続性の分断による魚類生息域の減少などが進行し、生物の生息・生育・繁殖環境に大きな影響を及ぼしている。一方、猪名川の自然環境は都市部に残された貴重な自然環境として人々に潤いを与えるとともに利用され、市民の関心も高くなりますその重要性が認識されている。
- 猪名川の中流部において、重要種であるイカルチドリ・カワヂシャ等が生息・生育可能な環境の保全・創出を図るため、今後概ね30年間でレキ河原の保全や簡易魚道の保全・改良を行うなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



凡例

- 府県境
- 市町境
- 大臣管理区間
- 流域界
- 既設ダム(直轄)
- 治水メニュー
- Gインフラメニュー

### ●自然環境の保全・復元などの自然再生

- ・ 動植物の生息環境確保に向けたレキ河原の保全
- ・ 簡易魚道の保全・改良、ワンド保全・再生

### ●治水対策における多自然川づくり

- ・ 上下流の連続性確保に向けた簡易魚道の保全・改良
- ・ 水際環境確保に向けた水陸移行帯の保全及び湿地環境の保全

### ●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・ 小中学校などにおける河川環境学習、水環境パネル展の開催 等
- ・ ヒメボタル幼虫調査、観察会の実施
- ・ 地域活動団体等と連携・協働した外来種であるアレチウリ駆除活動の実施
- ・ 地域協力団体と連携したアユの産卵場整備体験学習



【全域に係る取組】  
地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援



# 淀川水系流域治水プロジェクト 猪名川分会【ロードマップ】

～ 総合治水と流域治水による猪名川流域の治水安全度のさらなる向上 ～

○猪名川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、府県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】猪名川上流部の兵庫県区間（多田院地区等）で築堤・護岸整備・橋梁改築を実施する。

猪名川上流部の直轄区間上流（出在家地区）で河道掘削を実施し、戦後最大である昭和35年台風16号洪水を安全に流下させる河道整備を完成させる。

猪名川と藻川に囲まれる島の内地区下流部において、水害リスクを軽減するための堤防強化（堤防拡幅）を完成させる。

猪名川直轄区間については、昭和35年台風16号洪水の降雨量を1.1倍とした洪水を安全に流下させるための河道掘削に着手する。

【中期】上下流バランスを確保しながら、河道掘削等を実施するとともに、猪名川と藻川に囲まれる島の内地区の堤防強化（堤防拡幅）を推進する。

【長期】新たな知見を踏まえ、必要な調査や点検を実施し対策が必要となる区間について、堤防強化を実施する。

河道掘削等を推進し、昭和35年台風16号洪水の降雨量を1.1倍とした洪水を安全に流下させる。

○あわせて、都市河川である流域の特徴を踏まえ、下水道整備による浸水対策（雨水ポンプ増強等）・流出抑制対策（雨水貯留施設の整備等）の氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、土地利用誘導の被害対象を減少させるための対策、避難に資するマップ等の被害軽減、早期復旧・復興のための対策を実施する。

区分	対策内容	実施主体	工程			
			短期	中期	長期	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	島の内地区の防災活動拠点の整備、堤防強化（堤防拡幅）等	猪名川河川事務所	防災活動拠点整備完成 島の内地区（下流部） 堤防強化（堤防拡幅）完成		川西市・池田市・豊中市・尼崎市	
	左門殿川、神崎川、庄下川の河道（河床）掘削、河道拡幅、築堤、橋梁改築、耐震対策等	大阪府・兵庫県 尼崎市		大阪府（神崎川）兵庫県（左門殿川、神崎川、庄下川） 尼崎市（庄下川）		
	猪名川上流部及び中下流部の河道（河床）掘削、護岸整備、堰改築・床固撤去、築堤、橋梁改築及び一庫ダムの暫定放流の解消	猪名川河川事務所 大阪府・兵庫県	猪名川上下流部 多田院地区等	一庫ダム暫定放流解消 猪名川下流部の 浸水被害軽減	気候変動対応 河道完成	猪名川中下流部
	一庫ダム及び箕面川ダムの事前放流等の実施・体制構築	水資源機構 大阪府・兵庫県	一庫ダム・箕面川ダムの 事前放流実施			
	下水道整備による浸水対策	大阪府 豊中市・伊丹市 等	雨水ポンプ・幹線・管渠等の整備 （豊中市・池田市・尼崎市・伊丹市・川西市）	雨水増補管の整備 （豊中市）		
	流出抑制対策（調整池、ため池等）など	林野庁 大阪府・兵庫県 等	ため池等の雨水貯留浸透施設の整備・活用 （大阪府・兵庫県・池田市）	森林整備・保全等の治山対策・砂防事業（堰堤）の推進による、 雨水・土砂・流木の流出抑制対策（林野庁・大阪府・兵庫県）		総合治水対策の強化
	被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	大阪府・兵庫県 豊中市・宝塚市	建物等の耐水機能の 確保・維持（兵庫県）	立地適正化計画の見直し（豊中市）	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難に資するマップ等の整備・充実・周知	猪名川河川事務所 大阪府・兵庫県 池田市 等	浸水・高潮・土砂災害ハザードマップの 集約した保存版の作成（豊中市）	洪水等ハザードマップの作成・公表・周知・啓発 （大阪府・兵庫県・豊中市・池田市・尼崎市・伊丹市・川西市）		
	避難行動に資する情報発信・充実等	猪名川河川事務所 大阪府・兵庫県 等	防災情報等の発信 （大阪府・兵庫県）	多様な情報発信手段の検討、整備 （尼崎市）		
グリーンインフラの取組	レキ河原保全、水陸移行帯の保全、湿地環境の保全、簡易魚道の保全・改良、ワンド保全・再生	猪名川河川事務所	レキ河原保全、水陸移行帯の保全、湿地環境の保全、簡易魚道の保全・改良、ワンド保全・再生			
	河川環境学習・水環境パネル展の開催、ヒメボタル幼虫調査・観察会の実施、アレチウリ駆除活動の実施、アユの産卵場整備体験学習	猪名川河川事務所、河川レンジャー、神崎川水濁協猪名川分会、河川協力団体	河川環境学習・水環境パネル展の開催、ヒメボタル幼虫調査・観察会の実施、アレチウリ駆除活動の実施、アユの産卵場整備体験学習			
	フラッシュ放流とダム下流への土砂還元の実施、弾力的管理試験の実施、ダム湖内の外来魚を駆除	水資源機構	フラッシュ放流とダム下流への土砂還元の実施 弾力的管理試験の実施 ダム湖内の外来魚を駆除			
	ダム上流河川でのアユの産卵場整備	一庫ダム水源地域ビジョン 推進協議会	ダム上流河川でのアユの産卵場整備			

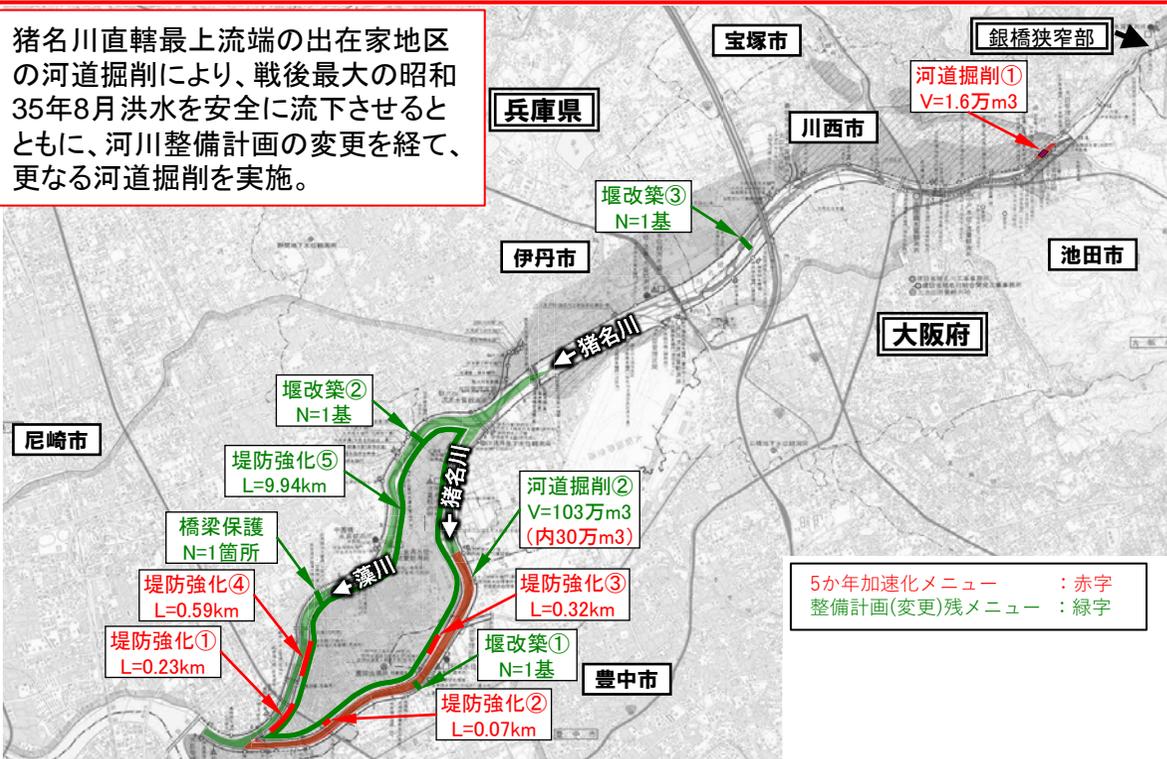
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 猪名川分会【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～ 総合治水と流域治水による猪名川流域の治水安全度のさらなる向上 ～

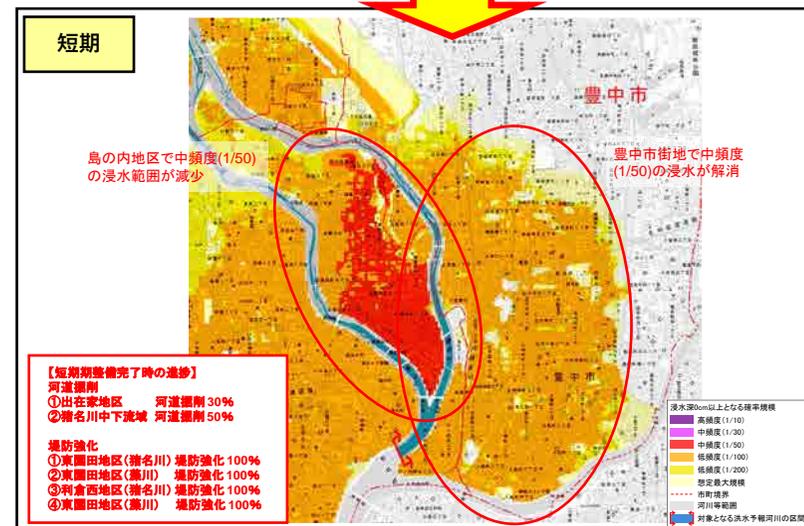
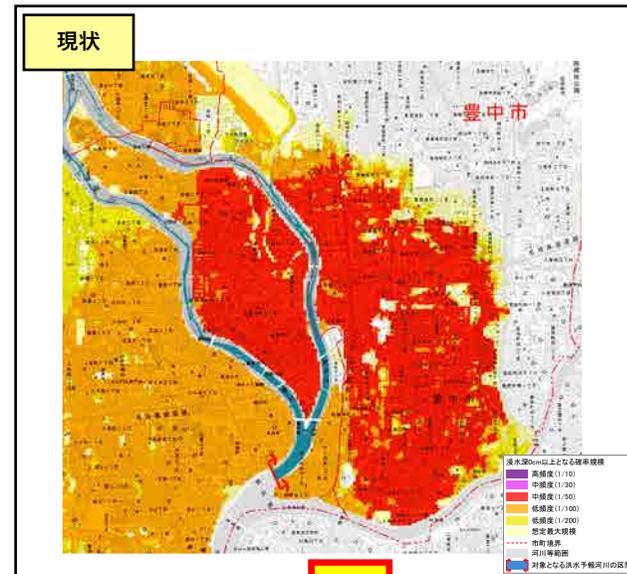
**短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率 約68%→約77%**

猪名川直轄最上流端の出在家地区の河道掘削により、戦後最大の昭和35年8月洪水を安全に流下させるとともに、河川整備計画の変更を経て、更なる河道掘削を実施。



区分	対策内容	区間	工程	
			短期 (R2～R7年)	中長期 (R8～R33年)
河道掘削		①地区 (出在家)	30%	50%
		②地区 (猪名川中下流域)	50%	100%
堰改築等		①地区 (上津島床固)	100%	100%
		②地区 (大井井堰)	100%	100%
		③地区 (高木井堰)	100%	100%
		橋梁保護 (阪急神戸線瀬川橋梁保護)	100%	100%
堤防強化		①地区 (東園田)	100%	100%
		②地区 (東園田)	100%	100%
		③地区 (利倉西)	100%	100%
		④地区 (東園田)	100%	100%
		⑤地区 (島の内)	100%	100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。  
※短期整備効果における河川整備率は淀川水系全体の河川整備率を記載している。



※この図は、河川の長期計画（河川整備基本方針）で計画対象としている1/200確率年の降雨及びその降雨を1/10、1/30、1/50、1/100の確率年とした場合に想定される浸水範囲であり、河川整備計画で目標とする降雨により想定される浸水範囲と一致しない場合がある。  
※国直轄区間からの外水氾濫のみを想定したものであり、浸水範囲の軽減効果は、国の整備効果のみを反映している。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 猪名川分会【流域治水の具体的な取組】

～ 総合治水と流域治水による猪名川流域の治水安全度のさらなる向上 ～

**R6.3更新(2.0策定)**

戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）



**整備率：77%**

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



**51市町村**

（令和5年度末時点）

流出抑制対策の実施



**238施設**

（令和4年度実施分）

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策



治山対策等の実施箇所 **54箇所**  
（令和5年度実施分）  
砂防関係施設の整備数 **5施設**  
（令和5年度完成分）  
※施行中 78施設

立地適正化計画における防災指針の作成



**12市町村**

（令和5年7月末時点）

避難のためのハザード情報の整備



洪水浸水想定区域 **268河川**  
（令和5年9月末時点）  
内水浸水想定区域 **12団体**  
（令和5年9月末時点）

高齢者等避難の実効性の確保



避難確保計画 洪水 **14,904施設**  
土砂 **966施設**  
（令和5年9月末時点）  
個別避難計画 **49市町**  
（令和5年1月1日時点）

## 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



戸ノ内地区河道掘削(国土交通省)

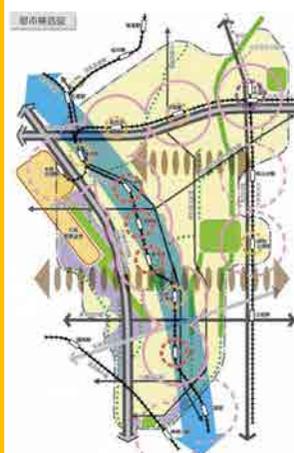
**流下能力向上対策**



**河道掘削**

猪名川下流部において、戦後最大洪水である昭和35年台風16号洪水の降雨量を1.1倍とした洪水を安全に流下させる河道整備を実施。

## 被害対象を減少させるための対策



めざすべき都市の骨格像（豊中市）

「第2次豊中市都市計画マスタープラン」の「都市空間の将来像」では、居住・都市機能・産業の各誘導ゾーンやバス路線充実に向けた地域連携網を設定し、居住の拡散防止による利便性の高い住環境の維持や事業所の操業環境確保、生活サービス機能の維持・充実とともに、歩いて暮らせる都市づくりに取り組むものとしている。

「都市空間の将来像」の実現のため、公共交通網の活用や居住の誘導並びに都市機能の誘導をめざす包括的な計画として、豊中市立地適正化計画を平成30年度に策定。令和2年6月の都市再生特別措置法の改正を受け、新たに防災指針を定めるとともに、上位計画等との整合を図りながら、令和5年度に同計画を改定。

## 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

要配慮者利用施設の避難確保計画の作成について

大阪府池田土木事務所

◆水防法、土砂災害防止法に基づき、要配慮者利用施設の「避難確保計画作成」と「避難訓練実施」が義務となっています。

浸水や土砂災害が想定される地域における社会福祉施設、学校、医療施設等の要配慮者利用施設の所有者または管理者は、洪水等に対する迅速な被害の確保を図るため、「避難確保計画の作成」「避難訓練の実施」が、水防法、土砂災害防止法により義務化されています。

※水防法、土砂災害防止法 平成29年6月19日改正

大阪府と連携した要配慮者利用施設避難確保計画の作成支援(池田市)

要配慮者利用施設における避難確保計画の作成に向けた講習会を開催することにより、未作成施設に対する支援を行う。（令和5年9月末時点において、全97施設が作成完了）  
※洪水78施設、土砂災19施設

※淀川水系全体の指標の数値を記載しています  
※指標の数値は集計中のため変更の可能性があります。

木津川上流分会

# 流域治水プロジェクト2.0

～気候変動下で水害と共生する社会をデザインする～

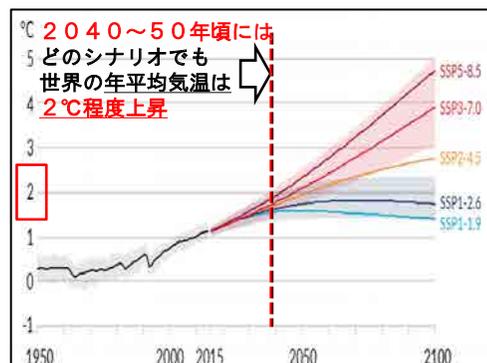
R6.3更新(2.0策定)

## ■現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算。  
**現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り**
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの関心の高まりに伴い治水機能以外の多面的な機能も考慮する必要
- インフラDX等の技術の進展

## ■流域治水プロジェクト更新の方向性

- 気候変動を踏まえた治水計画に見直すとともに、流域対策の目標を定め、あらゆる関係者による流域対策の充実
- 対策の“量”、“質”、“手段”の強化により早期に防災・減災を実現
- **気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を『流域治水プロジェクト2.0』として、全国109水系で順次更新し、流域関係者で共有**

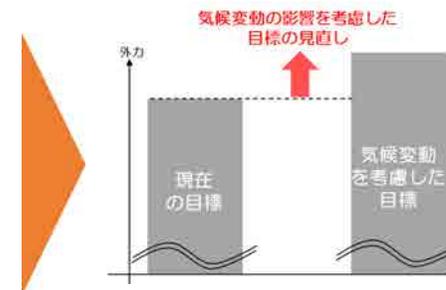


気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇相当	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100～1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



河川整備計画等についても、**気候変動を踏まえ安全度を維持するための目標外力の引き上げが必要**

## ■流域治水2.0のフレームワーク ～気候変動下で水害と共生するための3つの強化～

### “量”の強化

- ◆ 気候変動を踏まえた治水計画への見直し(2℃上昇下でも目標安全度維持)
- ◆ 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
- ◆ あらゆる治水対策の総動員

### “質”の強化

- ◆ 溢れることも考慮した減災対策の推進
- ◆ 多面的機能を活用した治水対策の推進

### “手段”の強化

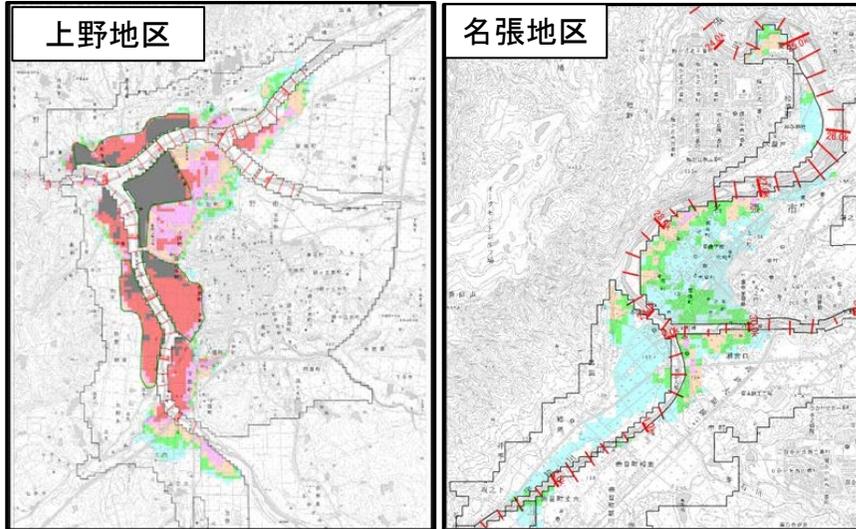
- ◆ 既存ストックの徹底活用
- ◆ 民間資金等の活用
- ◆ インフラDX等の新技術の活用

水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動

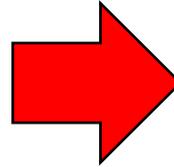
○気候変動による降雨量増加後の河川整備計画規模の洪水が発生した場合、木津川上流域では浸水家屋数が約2600戸になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。(淀川水系河川整備計画はR3.8に、気候変動による降雨量増加を考慮して変更済み)

## ■気候変動に伴う水害リスク

### 国管理区間からの外水氾濫による浸水範囲・浸水世帯数



対策後



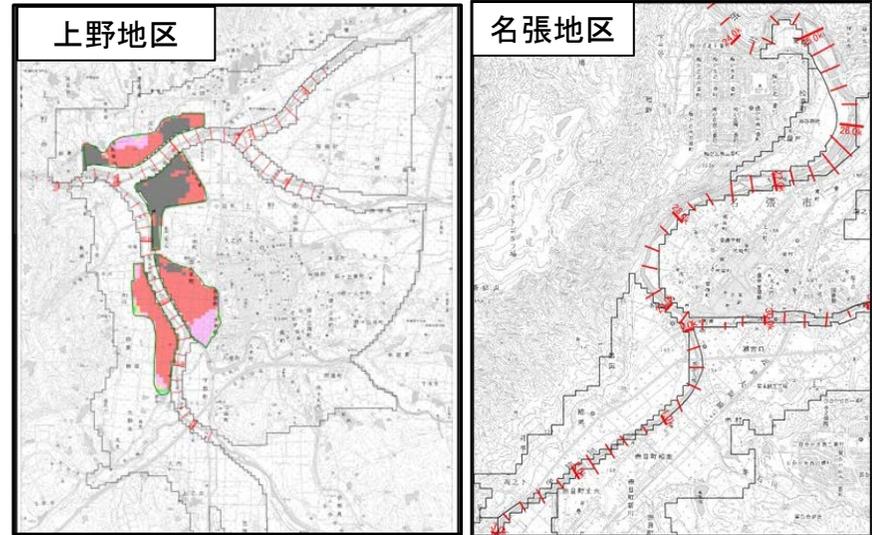
【目標①】

(上野地区)

KPI: 浸水家屋数  
約1,200戸⇒0戸

(名張地区)

KPI: 浸水家屋数  
約1,400戸⇒0戸



＜現状・気候変動考慮＞ 河道: R1末時点  
外力: 現行河川整備計画の目標流量(気候変動考慮)

＜対策後＞ 河道: 整備計画完了時点  
外力: 現行河川整備計画の目標流量(気候変動考慮)

## ■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の整備計画目標洪水に対する安全の確保

木津川、服部川、柘植川、名張川、宇陀川、青蓮寺川

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
減らす 防く 氾濫を	国	計画規模洪水を安全に流下させる		概ね 30年
減らす 対象を 被害	名張市	立地適正化計画策定予定(R6)		—
早期復旧・復興 被害の軽減	国	土地利用や住まい方の工夫の検討 及び水災リスクを踏まえた防災まち づくりの検討	多段階の浸水想定図(浸水頻度毎の浸 水深図)及び水害リスクマップ(浸水深 毎の浸水頻度)の整備	—
	気象庁	線状降水帯発生予測技術の活用		
	名張市、笠置町、山添 村、京都府	マイタイムライン作成支援		

【目標③】小田地区における内水被害の軽減(1/10規模降雨の雨水出水による浸水被害を防止)

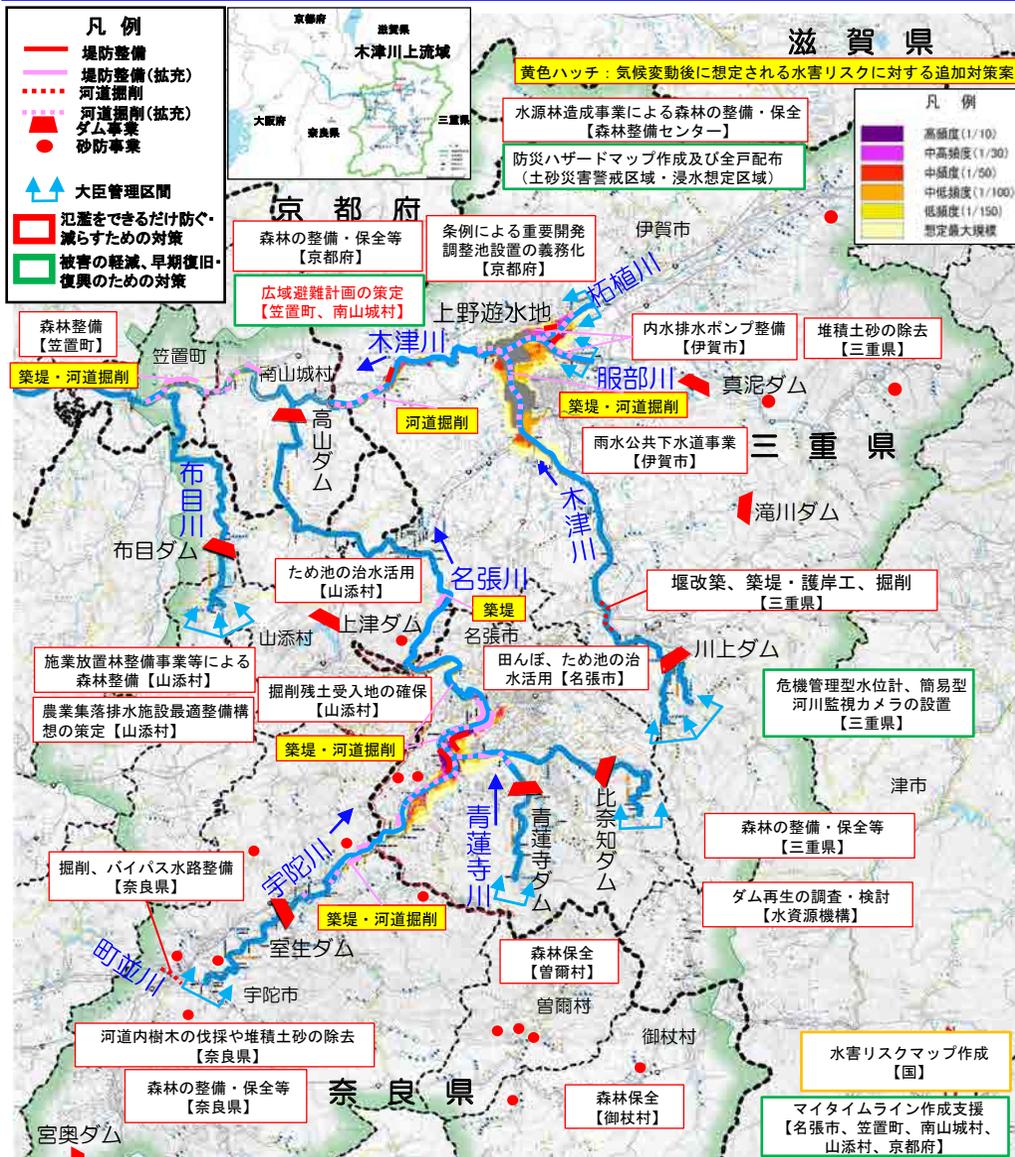
種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
減らす 防く 氾濫を防	伊賀市(下水道)	小田地区の内水の排除	排水施設・ポンプ	

# 淀川水系流域治水プロジェクト 木津川上流分会【位置図】

R6.3更新(2.0策定)

## ～淀川の水と緑が組み合う流域治水対策～

- 凡例**
- 堤防整備
  - 堤防整備(拡充)
  - 河道掘削
  - 河道掘削(拡充)
  - ダム等築
  - 砂防事業
  - 大臣管理区間
  - 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
  - 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



○木津川上流域では、近年の豪雨や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、以下の取り組みを一層推進していくものとし、国管理区間においては、気候変動の影響等を踏まえ、これまでの目標洪水の降雨量1.1倍以上とした洪水を安全に流下させることを目指す。

**■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**

**【洪水氾濫対策】**

- 河道掘削・拡幅、築堤、橋梁架替、堰改築、川上ダム、上野遊水地、バイパス水路、掘削残土受入地の確保推進

**【内水氾濫対策】**

- 下水道(雨水)管渠等の排水施設整備、内水排水ポンプ整備、雨水公共下水道事業の整備

**【土砂災害対策】**

- 砂防堰堤、溪流保全工の整備、地すべり対策

**【流水の貯留機能の拡大】**

- 川上ダムの整備、利水ダム等9ダムにおける事前放流等の実施、効果的な事前放流の実施(予測精度向上や施設改良)、河川改修に伴うダム運用改善、ダム再生の調査・検討、ダム湖の堆砂除去
- 流域の雨水貯留機能の向上
- 調整池の整備、田んぼ・ため池等の治水活用
- 森林の整備・保全、治山 等



**■被害対象を減少させるための対策**

**【水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫】**

- 土地利用誘導(災害危険区域の指定など)
- 災害危険区域や建築制限の指定を受けた区域の整備(立地適正化計画策定事業など)

**【まちづくりでの活用を視野にした土地の水災害リスク情報の充実】**

- 水害リスクマップの作成

**■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**

**【土地の水災害リスク情報の充実】**

- 地形改変等のあった箇所基礎調査、水害リスク空白域の解消

**【あらゆる機会を活用した水災害リスク情報の提供】**

- 防災教育の実施、水害履歴の情報発信
- ポータルサイトにおける水害リスク情報の充実

**【避難体制等の強化】**

- 避難指示に着目したタイムラインの策定・マイタイムラインの作成
- 避難情報に着目した複数市町村を対象とした流域タイムラインの作成
- 広域避難計画の策定・多機関連携型タイムラインの拡充
- ハザードマップの改良・周知・活用・まるごとまちごとハザードマップの整備
- 内水ハザードマップの策定・システム等による危険度情報の発信
- 避難指示等の判断・伝達マニュアルの整備・関係機関が連携した実動水防訓練の実施
- 要配慮者利用施設における避難計画の策定及び避難訓練の促進・避難支援対策の整備
- 水防団や地域住民が参加する水害リスクの高い箇所共同点検
- 水防活動の担い手となる水防団員や水防協力団体の募集・指定の促進

**【関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化】**

- 排水施設情報の共有・排水手法等の検討、大規模水害を想定した排水計画の作成、排水ポンプ車出動要請の連絡体制の整備、排水計画に基づく排水訓練の実施、水防拠点の検討 等



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討により変更となる場合があります。  
 ※他の事業者の計画も見直しされれば、同様に反映します。  
 ※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。  
 ※浸水リスクを示す浸水範囲については、リスクマップを公表している木津川上流河川事務所管理区間のみを表示している。

	氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<b>“量” の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し ＜具体の取組＞</li> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策</li>   <li>○役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞</li> <li>・内水排水ポンプ整備</li> <li>・田んぼ・ため池の治水活用</li> <li>・森林の整備・保全、治山</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し ＜具体の取組＞</li> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策</li> <li>・マイ・タイムラインの作成</li> <li>・多機関連携型タイムラインの拡充</li> <li>・水位計・監視カメラ・簡易量水標の設置</li>   <li>○役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞</li> <li>・自主防災会や自治会、行政に対して、災害への備えの講演やアドバイスを実施</li> <li>・小中学校等における水災害教育や土砂災害教育の実施</li> <li>・メディア出演による防災啓発と広報活動</li> <li>・関係機関が連携した実働水防訓練の実施</li> <li>・防災訓練の実施</li> </ul>
<b>“質” の強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多面的機能を活用した治水対策の推進 ＜具体の取組＞</li> <li>・効果的な事前放流の実施(予測精度の向上)操作規則・実施体制の構築</li> <li>・河川管理施設の長寿命化・防災拠点整備、重要施設の移転</li> <li>・木津川水系に流入する土砂流出抑制による土砂・洪水氾濫対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞</li> <li>・災害危険区域や建築制限の指定を受けた区域の整備</li> <li>・立地適正化計画の策定</li> <li>・避難路、避難場所の安全対策の強化</li> <li>・土砂災害警戒区域等の指定</li> </ul>	—
<b>“手段” の強化</b>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インフラDX等の新技術の活用 ＜具体の取組＞</li> <li>・線状降水帯の発生を知らせる「顕著な大雨に関する気象情報」を予測技術を活用</li> </ul>

# 淀川水系流域治水プロジェクト 木津川上流分会【位置図】

～淀川の水と緑が組み合う流域治水対策～

## ●グリーンインフラの取り組み 『淀川の水と緑が組み合う流域治水対策』

- 木津川上流部の一部は室生赤目青山国定公園に位置し、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオの生息が確認されている。また、岩倉峡や赤目四十八滝等の景勝地が点在し、豊かで多様な動植物が息つき良好な景観が形成されている等、木津川上流域は次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在している。
- 木津川上流域においては、多様な水生生物が生息・繁殖可能な河川環境を目標に、今後概ね30年間で、河道掘削にあわせ「オオサンショウウオ等の生育環境を保全する」など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

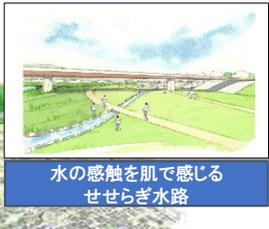


- ### ●治水対策における多自然川づくり
- ・上下流の連続性の回復
  - ・遊水地と本川の連続性の回復
  - ・生物の多様な生育環境の保全・再生
  - ・木津川上流多自然川づくり全体計画による河川環境の保全



- ### ●魅力ある水辺空間・賑わい創出
- ・地域の歴史・文化に配慮した河川景観の保全
  - ・名張かわまちづくり
  - ・ミズベリングの実施

- ### ●自然環境が有する多様な機能活用の取組み
- ・ヤギを活用した除草
  - ・牧草等に活用される刈草ロールの配布
  - ・小中学生による水生生物調査
  - ・河川レンジャー制度を活用した環境学習
  - ・水辺の楽校を活用した環境学習



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 木津川上流分会【ロードマップ】

R6.3更新(2.0策定)

## ～淀川の水と緑が組み合う流域治水対策～

- 木津川上流域では流域全体を俯瞰し、国、府県、市町村等が一体となって、以下の手順で「流域治水対策」を推進する。
  - 【短期】 治水安全度を着実に向上させるため、川上ダムと名張川黒田地区引堤を完成させる。
  - 【中期】 木津川上流域で人口資産が集中する伊賀・名張・宇陀市街地において、河道掘削及び堤防整備等を推進する。
  - 【長期】 気候変動を踏まえた更なる対策を推進し、河道掘削や堤防整備等により木津川上流域の安全度向上を図る。
 また、河川改修のストック効果の最大化により、ダムの運用改善等に取り組む。
- あわせて、水防拠点整備や管理施設の長寿命化対策等を実施する。  
 豪雨が頻発・激甚化する中、市街地の浸水被害を防ぐ内水被害軽減対策としてポンプ場の整備、ため池や田んぼ等の活用に取り組む。  
 大規模な浸水被害から人命や資産を守るため、森林保全等の流出抑制策に取り組む。

区分	対策内容	実施主体	短期	中期	長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	名張川の河道(河床)掘削、引堤、築堤、橋梁架替等による洪水氾濫対策 水防拠点の検討	国土交通省		名張川黒田地区引堤完成(国土交通省)	
	名張川、宇陀川、青蓮寺川、町並川、山田川等の河道(河床)掘削や築堤、 地下バイパス水路、樹木伐採・堆積土砂撤去等による洪水氾濫対策	国土交通省、三重県、奈良県			木津川上林・上神戸工区完成(三重県)
	木津川、服部川、柘植川等の河道(河床)掘削や樹木伐採・堆積土砂撤去、 遊水池の整備等による洪水氾濫対策	国土交通省、三重県、京都府			
	下水道(雨水)管渠等の排水施設整備、内水排水ポンプ整備、雨水公共下 水道事業の整備	伊賀市		大戸川小田排水機場の整備(伊賀市)	
	砂防堰堤工、溪流保全工の整備、地すべり対策	国土交通省、三重県、奈良県			
	川上ダムの整備、利水ダム等9ダムにおける事前放流等の実施、効果的 な事前放流の実施(予測精度向上や施設改良)、ダム湖の堆砂除去、河川 改修に伴うダム運用改善、ダム再生の調査・検討	農林水産省、水資源機構	川上ダム完成(水資源機構)		
	調整池の整備、田んぼ・ため池等の治水活用、森林の整備・保全、治山 等	農林水産省、三重県、京都府、奈良県 名張市、山添村、曽爾村、御杖村、森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	土地利用誘導(災害危険区域の指定など)、災害危険区域や建築制限の指 定を受けた区域の整備(立地適正化計画策定事業など)等	名張市等			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の空白域の解消等による土地の水災害リスク情報の充実	国土交通省、三重県、京都府、奈良県			
	防災教育の実施等によるあらゆる機会を活用した水災害リスク情報の提供	国土交通省、水資源機構、三重県、京都府、奈良県			
	避難指示に着目したタイムラインの策定、マイ・タイムラインの作成等による 避難体制等の強化	全ての主体			
	大規模水害を想定した排水計画(案)の作成等による関係者と連携した早 期復旧・復興の体制強化	国土交通省、三重県、京都府、奈良県			
グリーンインフラの取組	※詳細は次ページ				

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

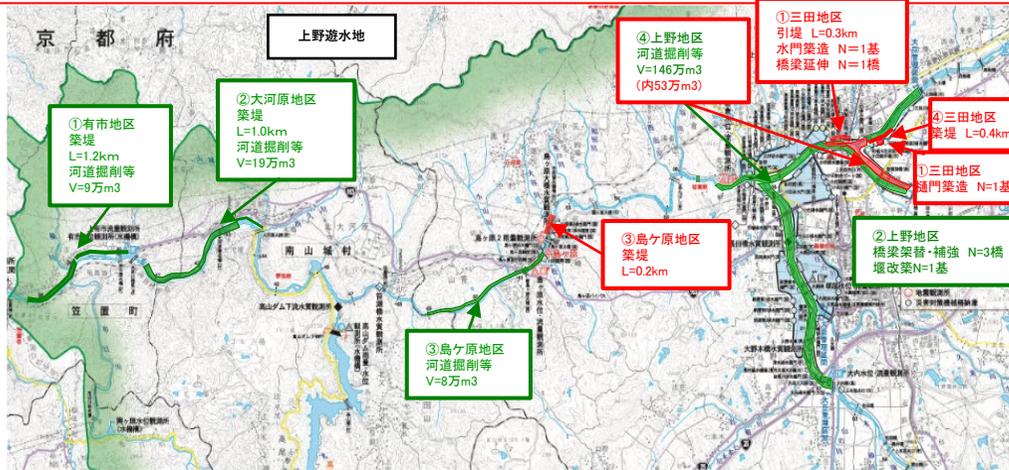


# 淀川水系流域治水プロジェクト 木津川上流分会【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～淀川の水と緑が組み合う流域治水対策～

## 短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率 約68%→約77%

現在供用している上野遊水地、川上ダム建設事業のR4完了、木津川支川服部川の三田地区の引堤整備のR7完了、引き続き服部川河道掘削等の推進により、服部川、柘植川合流部の資産集中地区において戦後最大である昭和28年台風13号規模洪水を安全に流下させることが可能。

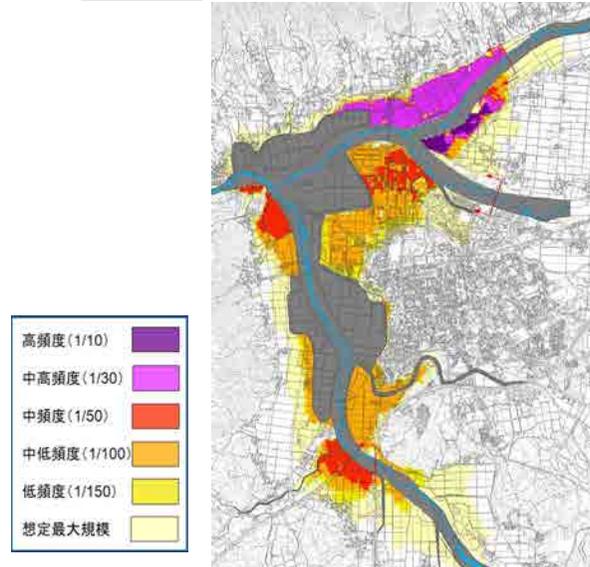


区分	対策内容	区間	工程		
			短期(R2-R7年)	中期(R8-R15年)	長期(R16-R34)
関連事業			▼川上ダム完成(R4)		
築堤	① 有市地区 (木津川)			100%	
	② 大河原地区 (木津川)				100%
	③ 鳥ヶ原地区 (木津川)		100%		
	④ 三田地区 (柘植川)		100%		
引堤	① 三田地区 (服部川)		100%		
	② 上野地区 (服部川)		100%		
樋門	① 三田地区 (柘植川)		100%		
	② 上野地区 (伊賀上野橋)			100%	
河道掘削等	① 有市地区 (木津川)			100%	
	② 大河原地区 (木津川)			100%	
	③ 鳥ヶ原地区 (木津川)				100%
	④ 上野地区 (木津川)				100%
橋梁延伸・架替・補強・堰改築	① 三田地区 (伊賀上野橋)		100%		
	② 上野地区 (若倉橋他2橋、小田新井橋)				100%

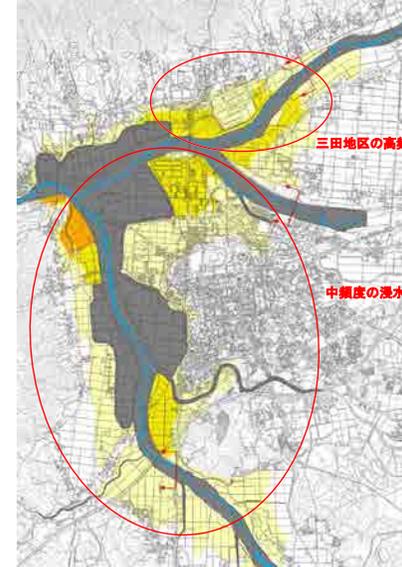
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

※短期整備効果における河川整備率は淀川水系全体の河川整備率を記載している。

現状



短期



- 【短期期整備完了時の進捗】
- 築堤
- ③鳥ヶ原地区 築堤 100%
- ④三田地区 築堤 100%
- 引堤
- ①三田地区 引堤 100%
- 樋門
- ①三田地区 樋門 100%
- 河道掘削
- ④上野地区 河道掘削 34%
- 橋梁延伸・架替
- ①三田地区 橋梁延伸・架替 67%

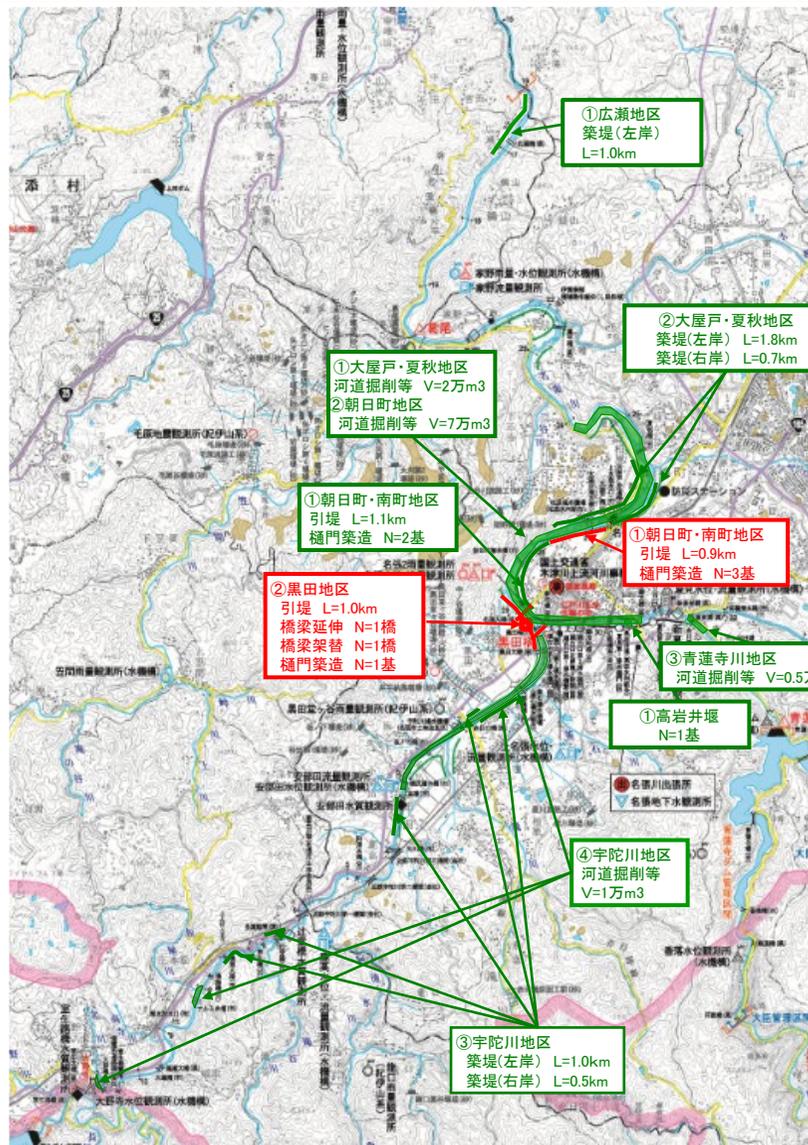
※この図は、河川の長期計画（河川整備基本方針）で計画対象としている1/150確率年の降雨及びその降雨を1/10、1/30、1/50、1/100の確率年とした場合に想定される浸水範囲であり、河川整備計画で目標とする降雨により想定される浸水範囲と一致しない場合がある。  
※国直轄区間からの外水氾濫のみを想定したものであり、浸水範囲の軽減効果は、国の整備効果のみを反映している。

# 淀川水系流域治水プロジェクト 木津川上流分会【事業効果（国直轄区間）の見える化】

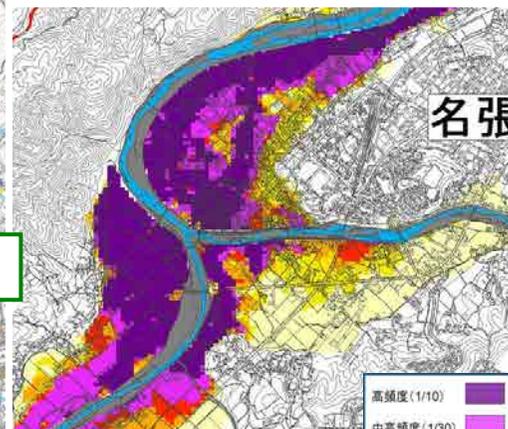
～淀川の水と緑が組み合う流域治水対策～

**短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率 約68%→約77%**

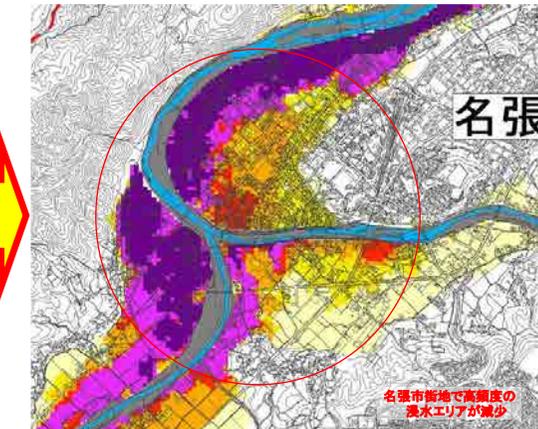
黒田地区引堤事業(旧堤撤去含む)完了させ名張市街地の水位を約1m低下させ越水を回避させるとともに、朝日町・南町地区引堤事業を推進することで、名張市街地の治水安全度をさらに向上。



現状



短期



【短期整備完了時の進捗】  
引堤  
①朝日・南町地区 引堤 25%  
②黒田地区 引堤 100%

※この図は、河川の長期計画（河川整備基本方針）で計画対象としている1/150確率年の降雨及びその降雨を1/10、1/30、1/50、1/100の確率年とした場合に想定される浸水範囲であり、河川整備計画で目標とする降雨により想定される浸水範囲と一致しない場合がある。  
※国直轄区間からの外水氾濫のみを想定したものであり、浸水範囲の軽減効果は、国の整備効果のみを反映している。

区分	対策内容	区間	工程		
			短期(R2~R7年)	中期(R8~R15年)	長期(R16~R34)
関連事業					
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	引堤	① 朝日・南町地区(名張川)	100%	100%	
		② 黒田地区(名張川)	100%		
	築堤	① 広瀬地区(名張川)		100%	
		② 大屋戸・夏秋地区(名張川)		100%	
③ 宇陀川地区(宇陀川)			100%		
河道掘削等	① 大屋戸・夏秋地区(名張川)		100%		
	② 朝日町地区(名張川)		100%		
	③ 青蓮寺川地区(青蓮寺川)			100%	
	④ 宇陀川地区(宇陀川)			100%	
井堰	① 高岩地区(名張川)			100%	

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。 ※短期整備効果における河川整備率は淀川水系全体の河川整備率を記載している。

# 淀川水系流域治水プロジェクト（木津川分会）【流域治水の具体的な取組】

～淀川の水と緑が組み合う流域治水対策～

**R6.3更新(2.0策定)**

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p><b>整備率：77%</b> (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p><b>51市町村</b> (令和5年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p><b>238施設</b> (令和4年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 <b>54箇所</b> (令和5年度実施分) 砂防関係施設の整備数 <b>5施設</b> (令和5年度完成分) ※施工中 78施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p><b>12市町村</b> (令和5年7月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 <b>268河川</b> (令和5年9月末時点) 内水浸水想定区域 <b>12団体</b> (令和5年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保計画 洪水 <b>14,904施設</b> 土砂 <b>966施設</b> (令和5年9月末時点) 個別避難計画 <b>49市町村</b> (令和5年1月1日時点)</p>
---	---	---	---	---	--	--

## 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

**名張川改修【木津川上流河川事務所】**



河道拡幅や掘削等により、流下能力の向上を図り、治水安全度を向上させる。

**木津川（指定区間）大規模特定河川事業【三重県】**



地下河川（バイパス河川）整備により、豪雨による浸水被害を軽減させる。

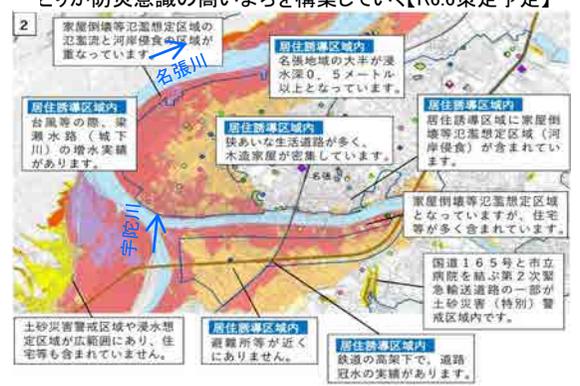
**町並川地下パイプスの整備【奈良県】**



## 被害対象を減少させるための対策

**名張立地適正化計画の策定【名張市】**

令和5年度に立地適正化計画（素案）を策定し、パブリックコメントを実施ハザードエリア内の居住誘導区域の設定に伴い防災指針を定めて災害リスクの回避や除去・低減に取り組むとともに市民一人ひとりが防災意識の高いまちを構築していく【R6.6策定予定】



～名張地区のハザード情報～

<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>想定最大規模 浸水深                     <ul style="list-style-type: none"> <li>10.0～20.0m未満</li> <li>5.0～10.0m未満</li> <li>3.0～5.0m未満</li> <li>0.5～3.0m未満</li> <li>0.5m未満</li> </ul> </li> <li>家屋倒壊等氾濫想定区域</li> <li>土砂災害特別警戒区域</li> <li>土砂災害警戒区域</li> <li>避難所</li> <li>防災拠点</li> <li>医療施設（内科・外科を含むもの）</li> <li>福祉施設（入浴・宿泊・住居系）</li> <li>福祉施設（通所系）</li> <li>教育施設</li> <li>子育て支援施設</li> <li>主な公共施設、文化・集会所等</li> <li>居住誘導区域</li> <li>行政界</li> <li>市界</li> <li>河川・水圏</li> </ul>
--

## 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

**治水、防災に関する出前講座の実施【紀伊山系砂防】**



河川災害や土砂災害の種類、メカニズム、ハザードマップでの避難所の確認を通じて自助力向上を図る。

**伊賀市と国土交通省合同による災害対策用機械操作訓練の実施【伊賀市、木津川上流河川】**



国土交通省と伊賀市の連携を深めることを目的に毎年実施。災害発生時に迅速な対応ができる体制を確立。

## 砂防堰堤【紀伊山系砂防事務所】 急傾斜地崩壊対策事業【三重県】



砂防堰堤、擁壁工等の整備により、土砂災害の被害を軽減させる。

**川上ダムの整備【水資源機構】**



川上ダムの整備により、伊賀市の治水安全度を向上させる。

## 名張市マイ・タイムライン講習会の開催【名張市、木津川上流河川】



流域治水の意識、重要性に対する流域関係者の理解と協力を求める働きかけを実施。

※指標の数値は集計中のため変更の可能性があります。淀川水系全体の指標の数値を記載しています。